

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ① 平常展								
【年度計画】									
・ I-(2)-① (4館共通) 1)、2)									
担当部課	東京国立博物館学芸研究部列品管理課 京都国立博物館学芸部 奈良国立博物館総務課 九州国立博物館学芸部総務課	事業責任者	課長 沖松健次郎 企画室長 山川暁 課長 大西真一 課長 執行正一						
【実績・成果】									
(4館共通)									
・ 平常展来館者数は1,084,003人と、3年度(432,362人)を大きく上回った。 (東京国立博物館)									
・ 3年度に引き続き、アンケートは来館者に記入依頼を行う形で実施した。また、アンケートの集計結果と自由意見を館内で共有し、改善に努めた。なお、ウェブサイト、館内スタッフに寄せられた意見について、関係部署に共有し、必要に応じて回答や改善を図った。									
・ 新型コロナウイルス感染状況を考慮した上で、3年度まで実施していた事前予約制を休止した。 (京都国立博物館)									
・ 平常展開催期間中にアンケートの記入場所を設置しただけでなく、来館者への記入依頼も行った。また、ウェブサイトや口頭にて寄せられたご意見・お問合せを担当部署・担当者間で共有し、必要に応じて回答や改善などの対応を実施した。 (奈良国立博物館)									
・ 館内に記述式アンケートの記入場所を設け、通年でアンケートを実施した。アンケート結果及びウェブサイトを通じて寄せられた当館への意見・要望については、速やかに関係部署と情報を共有し、改善に努めた。 (九州国立博物館)									
・ 館内に1か所記述場所を設け、通年でアンケートを実施した。また、特別展「最澄と天台宗のすべて」(2月8日～3月21日)会期中から、より幅広い層からアンケートを回収することを目的に、紙媒体とあわせて、オンラインでのアンケートも実施し、若年層からの意見を取り込むことに加え、回収率の向上に努めた。									
【補足事項】									
(東京国立博物館)									
・ アンケートについては、原則2か月に1回第1土曜日に実施した。規則性をもって行うことでアンケート結果の比較、検証に寄与することに努めている。									
(京都国立博物館)									
・ 来館者の意見や要望を踏まえて、展示室内の案内サインの追加や位置調整を行い、観覧環境の改善に取り組んだ。									
(奈良国立博物館)									
・ 来館者や館内職員から寄せられた意見や要望を踏まえて、館内の掲示物を追加・修正するなど、観覧環境の改善に取り組んだ。									
(九州国立博物館)									
・ アンケートの回答内容を館内で共有し、質問票やホームページから寄せられたお客様からの要望や問い合わせ等にも迅速に対応し、観覧環境の向上に努めた。									
【評価指標】項目	4年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	30	元	2	3	
平常展の来館者アンケート満足度									
東京国立博物館	88.4%	85%	B		89.2	90.2	85.8	87.9	
京都国立博物館	85.9%	81%	B		89.7	79.1	78.5	82.1	
奈良国立博物館	92.6%	92%	B		92.5	93.2	94.2	92.1	
九州国立博物館	77.0%	76%	B	73.6	77.1	-	81.0		
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 アンケート満足度については4館ともに目標値を達成している。アンケートでのご意見・ご要望を踏まえ、館内の掲示物の追加・修正を行うなど、観覧環境の改善に取り組み、来館者満足度の向上に貢献できた。 また、3年度まで一部の館で実施していた事前予約制を廃止し、感染症拡大予防の措置をとりつつ、積極的な来館者の呼び込みを図った。平常展来館者数は3年度比大幅増となり、感染状況に応じ柔軟な運営を行ったことを評価した。								
【中期計画記載事項】									
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとするともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。 なお、平常展の来館者アンケートの満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。									
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 アンケート満足度については3年度と同水準の結果となり、引き続き各博物館の特色を生かした質の高い展示や、観覧環境の向上に努めることができた。来館者よりいただいたご意見については、中期計画期間を通して改善を図っていききたい。平常展来館者数については、3年度比大幅増となり、コロナ以前の6割程度まで戻りつつある。3年度まで臨時休館や事前予約制等の措置をとらざるを得なかったのに対し、4年度は活動制限の緩和に伴い、柔軟な運営・積極的な広報を実施できたことが評価できる。5年度以降はインバウンドの回復も視野に入れつつ、引き続き適切な感染拡大予防措置をとりながら、来館者を増やしていきたい。								

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ①平常展							
【年度計画】								
・ I-1-(2)-① (東京国立博物館) 1)、2)、3)、4)								
担当部課	学芸研究部列品管理課			事業責任者	課長 沖松健次郎			
【実績・成果】								
3年度策定の計画通りに平常展を開催した。また4月1日から総合文化展入館のための事前予約を一時休止したが、特段の混雑や混乱もなく、快適な鑑賞空間を維持・提供できた。								
1) 展示計画に基づき、412回（展示総件数10,032件）の展示替を実施しながら充実した展示を行えた。								
2) 26件（3年度からの継続特集1件を含む）のテーマ性をもった特集展示をすべて実施することができた。また東京国立博物館創立150年記念と銘打った特集展示を、年間を通して開催した。展示にあたっては記念ロゴを積極的に活用するなど、創立150年の節目にふさわしい祝祭性の高い空間構成がなされ、来館者からもおおむね好評を博した。								
3) 平成館企画展示室において「令和4年新指定 国宝・重要文化財」を開催し、文化財指定制度ならびに日本文化に対するさらなる理解を深める場を設けることができた。								
4) 日本文化や歴史への理解促進を図るため、本館4室「茶の美術」と9室「能と歌舞伎」および14室の特集「未来の国宝—東京国立博物館 彫刻、工芸、考古の逸品—」においてデジタルサイネージを設置し、映像・静止画像・解説等により展示作品の使用例や文化的背景を紹介した。								
【補足事項】								
・ 本館総合文化展における英語解説の書式については、これまで両端揃えであったものを、ネイティブにとってより自然な見え方である左端揃えへと順次改善した。								
・ 展示環境を改善すべく本館特1・特2の全面改修を実施した。								
・ 本館3室単体ケースの開閉機工について電動化のための工事を実施し、展示作業の利便性が向上した。								
・ 老朽化していた本館14室の中央行灯ケースを、新たなケースに交換した。								
	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
平常展の来館者数	625,235人	-	-		989,508	1,030,652	166,639	211,052
【年度計画に対する総合評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 来館者数は徐々に回復傾向にあるが、なお新型コロナウイルス感染拡大前の水準と比べると6割程度にとどまる状況であった。そうした中で、計画したすべての特集展示を実施し、所蔵品の新たな魅力と価値を発信することができた。特に150周年の節目にふさわしく、館の歴史を振り返る取り組みやその過程で明らかとなった知見を展示で示すことができたことは大きな成果として位置づけられる。 また、トーハク新時代プランに基づき、多言語解説の見直しを弾力的にすすめることができ、来館者の日本文化に対する理解促進に努めることができた。					
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとするとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。								
【中期計画に対する評価】 評定：B			【判定根拠、課題と対応】 4月1日から総合文化展入館のための事前予約は一時休止措置をとり、来館者の利便性を向上させることができた。社会的にはなお外出自粛等の要請や各自が自発的に外出を控えるなどの状況が続いたが、3年度よりも多くの来館者を迎えることができたことは高く評価したい。5年度以降も、新題箋の導入拡大やデザインの改定などを進めながら、より魅力ある展示の実現に向けて努力していく。					

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ① 平常展							
【年度計画】								
・ I-1-(2)-① (4館共通) 2) (京都国立博物館) 1)、2)								
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 山川暁					
【実績・成果】								
2) 平常展来館者数は、56,369人であった。ただし、特別展と同時開催した平常展の来館者数は、左記には含まない。また、展示替件数は680件であった。 (京都国立博物館)								
1) 特別展前後の準備・撤収期間を考慮し、名品ギャラリー（平常展示）期間を設定した。展示替作業にあわせて、平成知新館内の一部の展示室のみを開室する部分開館も実施し、柔軟に対応した。								
2) 3件の特集展示、1件の特別公開を開催し、当初年度計画よりも特集展示を1件多く開催できた（「新発見！蕪村の「奥の細道図巻」」）。								
【補足事項】								
・ 特集展示「新発見！蕪村の「奥の細道図巻」」は、与謝蕪村による『おくのほそ道』の全文を書写し関連する絵を添えた作品の中で、もっとも早期に制作された作品が新発見されたため、当初年度計画には記載していなかったが、急遽開催した。初公開となった新発見作品と併せて、関連する所蔵品も展示した。期間中の来館者数は14,212人であった。								
・ 新春特集展示「卯づくし—干支を愛でる—」は、新春恒例の干支にちなんだ展示として、日本や中国の様々な兎をモチーフとした作品を展示予定。ファミリー向け展示として、小学校高学年以上向けを想定したやさしい解説文や、小学校低学年以上を想定したワークシート（多言語）を作成し、幅広い世代に向けた展示とした。期間中の来館者数は19,983人であった。								
・ 特集展示「雛まつりと人形」は、華やかな御殿飾り雛へと至る雛人形の変遷や、衣裳人形を通して人々の交流や旅の様相を中心に示しつつ、さまざまな京人形を展示した。期間中の来館者数は19,217人であった。								
・ 特別公開「熊本・宮崎の古墳文化—石人と貝輪—」は、石の埴輪（石人）やレリーフ（石障）、貝輪など、九州中南部（熊本・宮崎）地方で発達した独特の古墳文化を示す考古資料を展示した。期間中の来館者数は、夏期（特別展との同時開催期間を除く）と冬期をあわせて46,469人であった。								
								
「新発見！蕪村の「奥の細道図巻」」展 記者発表風景				「卯づくし」展 展示風景				
【定量的評価】 項目	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
平常展の来館者数	56,369人	-	-		146,314	158,664	18,941	35,440
【年度計画に対する総合評価】 評定：A		【判定根拠、課題と対応】 夏期自主企画展を特別展として開催したことにより、平常展のみ開催した期間は短くなったが、急遽開催した特集展示は多くのメディアに取り上げられ、短期間にもかかわらず多数の来館があり、年度計画以上の展示を企画できたと考えるため、Aと評価する。						
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。								
【中期計画に対する評価】 評定：B		【判定根拠、課題と対応】 4年度は、当初予定していた特集展示・特別公開に加え、作品の新発見に伴う特集展示を1件多く開催できた。また、収蔵文化財の名品の展示に際して、多言語での題箋提出、ジュニア版を含む音声ガイドの貸出、ワークシートの配布などを実施し、幅広く来館者の増加を図ることができたことから、中期計画を順調に遂行できていると判断した。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ①平常展							
【年度計画】								
・ I-1-(2)-① (奈良国立博物館) 1)、2)								
担当部課	学芸部	事業責任者	部長 吉澤悟					
【実績・成果】								
1) 下記のとおり名品展を実施し、特集展示を1件開催した。(展示総件数：393件、展示替件数：188件)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・名品展「珠玉の仏たち」 なら仏像館 4月1日～5年3月31日</li> <li>・名品展「中国古代青銅器」 青銅器館 4月1日～5年3月31日</li> <li>・名品展「珠玉の仏教美術」 西新館 12月10日～5年1月22日、5年2月4日～5年3月19日</li> <li>・特集展示「新たに修理された文化財」 西新館 5年2月21日～5年3月19日</li> </ul>								
2) 下記のとおり特別陳列を開催した。								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・わくわくびじゅつギャラリー「はっけん! ほとけさまのかたち」 東新館 7月16日～8月28日 入館者数 36,653人</li> <li>・特別陳列「お水取り」 東新館 5年2月4日～5年3月19日 入館者数 24,399人</li> </ul>								
【補足事項】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・なら仏像館における名品展「珠玉の仏たち」では、常時90件以上の仏像を公開した。5年3月21日からは、特別公開として、修理が完了した奈良・不退寺本尊の重要文化財 聖観音菩薩立像を公開するとともに、かつて本像と対をなし、江戸時代には不退寺に安置されていた文化庁所蔵の観音菩薩像とあわせて展示した。</li> <li>・名品展「珠玉の仏教美術」では、129件を公開した。</li> <li>・わくわくびじゅつギャラリー「はっけん! ほとけさまのかたち」では、仏像等の作品を31件公開し、仏像の主な4つのグループ「如来」「菩薩」「明王」「天」のそれぞれの形の特徴と、その見分け方を子ども向けにわかりやすく紹介した。子どもが仏像等の文化財に親しめることを目的に、以下の様々な教育普及事業を実践した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが理解できるような平易な解説文やイラストを多用した題箋や展示パネル等の設置</li> <li>・クイズ形式のワークシートを来場者に配布 (25,000部)</li> <li>・仏像のレプリカを活用したワークショップを会期中の毎日2回ずつ実施</li> <li>・仏像のレプリカのハンズオン展示</li> <li>・仏像を目の前にスケッチができる体験</li> <li>・来場者が描いた絵を掲示できるおえかきギャラリー「みんなが描くほとけさまのかたち」の設置</li> </ul> </li> </ul>								
								
わくわくびじゅつギャラリー「はっけん! ほとけさまのかたち」の展示風景				おえかきギャラリーとワークショップスペース				
【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評価	経年変化	30	元	2	3
平常展の来館者数	116,116人	-	-		140,829	160,869	43,262	52,178
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】							
評価：B	様々な来館者層が仏教美術について理解を深め、楽しめるように、毎年恒例の名品展やお水取り展、新たに修理された文化財展に加え、親子向けの特別陳列を3年ぶりに開催するなど硬軟織り交ぜた多彩な展覧会を実施した。来館者数は、3年度に比べ63,938名増加したため着実に計画を実施している。							
【中期計画記載事項】								
平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。								
【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】							
評価：B	4年度も仏教美術の専門館として数々の特色のある展覧会を開催した。名品展や特集展示では最新の研究成果を盛り込んだ展示を実施した。親子向けの仏像展の開催は若年層の理解促進のため新たな試みを存分に盛り込み、説明もイラストを多用した充実したものであったため、来場者から非常に高い評価を得ることができた。以上のことより中期計画を順調に遂行している。							



中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ①平常展							
【年度計画】								
・ I-1-(2)-① (九州国立博物館) 1)、2)								
担当部課	学芸部企画課		事業責任者	課長 伊藤信二				
【実績・成果】 (九州国立博物館)								
1) 前中期目標の実績の年度平均以上を目指して、平常展は展示替えを 1,961 件行い、来館者数は 239,282 人であった。								
2) 実物展示に加えてレプリカ、再現文化財、ロケットの模型などを有効に活用したり、「かわいい」という視点から考古資料を自由に鑑賞する展示企画を市民と協働で作り上げるなど、今まで取り組んだことがない切り口から文化財への関心を高め、鑑賞の幅を広げ新規顧客層を拡大する取り組みを行った。								
【補足事項】								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・特集展示「きゅーはく女子考古部プレゼンツ かわいい考古学のススメ」では、きゅーはく女子考古部の部員たちが主体的に考古分野の作品を選び、かわいいポイントに着目して解説を執筆した。研究員の学術的な解説と一緒に掲出し、アンケートやメディア報道でも高い評価を得た。</li> <li>・特集展示「御所の器—公家山科家伝来の古伊万里」では、江戸時代に御所で用いられた古伊万里の染付磁器を紹介した。江戸時代から明治時代にかけて公家・山科家に下賜され、伝えられた禁裏御用品を大学等と共同の調査研究の成果として初公開し、図録も刊行した。</li> <li>・特集展示「種子島一風と波が育んだ歴史—」は、鉄砲伝来の地としての評価だけでなく、先史以来の出土品や島内外に伝来した文化財を通じて、多角的に文化交流史上に種子島を位置付けた。ロケット打ち上げ基地と関連して、はやぶさ2やHIIAロケットの精巧な模型を展示し、主たる来館者層以外への訴求を図った。図録も刊行した。</li> <li>・新春特別公開「徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度」では、徳川三代将軍家光の長女の婚礼調度である「初音の調度」から、国宝3件（「初音蒔絵机」、「初音蒔絵色紙箱」、「胡蝶蒔絵長文箱」）を展示し、南部家ゆかりの大揃いの婚礼調度も紹介した。</li> <li>・「ならべてわかる本物のひみつ〜実物とレプリカ2022〜」は3年度に引き続き、実物とともに露出でレプリカや再現文化財を展示し、視角からだけでは分からない作品の魅力を発信した。</li> <li>・文化交流展示室で33言語に対応し、視覚や聴覚に障がいのあるお客様も楽しめる新ガイドサービス「ナビレンス de きゅーはく」と「ナビレンスGo! de きゅーはく」を開始した。また、展示室内5か所のデジタルサイネージで、現在陳列中の展示品に加えて、今後の展示企画の情報も公開しお客様へのサービス向上に努めた。</li> </ul>								
	4年度実績	目標値	評定	経年変化	30	元	2	3
平常展の来館者数	239,282人	-	-		349,114	348,563	81,230	104,898
【年度計画に対する総合評価】 評定：A				【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響が予想されたが、きゅーはく女子考古部の活動展開や、種子島ロケット打ち上げ基地と関連したはやぶさ2やHIIAロケットの精巧な模型展示など、自由な発想に基づく斬新な展示企画を打ち出し、平常展に関心の低かった若年層を含む新規顧客層の取り込みに成功した。実物とともに露出でレプリカや再現文化財を展示したり、視覚や聴覚に障がいのある来館者にも楽しんでもらえるよう新ガイドサービス「ナビレンス de きゅーはく」と「ナビレンスGo! de きゅーはく」の運用を開始するなど、社会的包摂等現代的な課題にも積極的に取り組んだ結果、3年度より来館者数が倍増した。以上の成果からA評価とした。				
【中期計画記載事項】 平常展は、展覧事業の中核と位置付け、各博物館の特色を十分に発揮した体系的・総合的なものとともに、最新の研究成果を基に、日本及びアジア諸地域等の歴史・伝統文化の理解の促進に寄与する展示を行い、展示に関する説明の充実、多言語化に取り組み、国内外からの来館者の増加を図る。								
【中期計画に対する評価】 評定：B				【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響がまだ残るなか、独創的で斬新な特集展示や社会包摂に対応した企画を開催した。これを一過的なものとせず、当館のコンセプトである文化交流の理解促進に一層資するべく中期計画を円滑に遂行し、来館者数、満足度の向上に寄与するよう取り組む。				





特集展示「かわいい考古学のススメ」の展示会場



特集展示「種子島一風と波が育んだ歴史—」の展示会場


中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展							
【年度計画】								
・ I-1-(2)-②-1) (4館共通) ア、イ								
担当部課	総務部総務課 学芸企画部企画課	事業責任者	課長 竹之内勝典 課長 原田あゆみ					
【実績・成果】								
ア 来館者への満足度調査を実施し、集計結果を速やかに関係部署で共有し、改善に努めた。 イ 新型コロナウイルス感染状況を考慮した上で、昨年度から引き続いていた事前予約を不要とした。ただし、想定来館者数に応じ、特定の特別展ではオンライン等による日時指定制を導入した。								
【補足事項】								
一部の特別展では、日時指定制により、快適な観覧環境とすることができた一方、オンラインでの予約が困難な方が一定数出たこと、人気のある展覧会では予約受付開始から早い段階で日時指定枠が埋まり、観覧できない方が多く出る状況となった。 そのため特別展「空也上人と六波羅蜜寺」では開館時間の延長を行った。特別展「東京国立博物館のすべて」では、開館時間の延長に加え、休館日の臨時開館や、文化財保護の観点から展示作品の状態等を考慮した上で会期の延長も行うなど、展覧会の来館者層やニーズに柔軟に対応することに努めた。引き続き新型コロナウイルス感染状況を注視しつつ、想定来館者数に合わせた柔軟な入館方法を検討していきたい。								
【評価指数】項目		4年度実績	目標値	評価	30	元	2	3
特別展の来館者アンケート満足度		83.9%	86%	C	84.2	86.6	85.5	91.0
空也上人と六波羅蜜寺		86.4%	-	-	-	-	-	-
琉球		85.3%	-	-	-	-	-	-
日中国交正常化50周年記念 特別デジタル展「故宮の世界」		63.7%	-	-	-	-	-	-
国宝 東京国立博物館のすべて 150年後の国宝展		91.9% 92.1%	- -	- -	- -	- -	- -	- -
【年度計画に対する総合評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 今までの展示方法とは異なりVRや高精細3D(3次元)データを用いたデジタル展示を中心に行った、「故宮の世界」展の満足度が伸び悩んだが、そのほかの展覧会では、目標値と同程度の結果(88.9%)が得られた。その中でも東京国立博物館創立150年の大きな節目を記念して開催した「国宝 東京国立博物館のすべて」及び当館初の公募型展覧会となった「150年後の国宝展」では、目標値を大幅に超える満足度となった。特に「国宝 東京国立博物館のすべて」では柔軟な運営を行い来館者サービス向上に努めたため、目標を達成したと言える。						
【中期計画記載事項】								
特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。 (東京国立博物館)年3～4回程度 なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指し、常に展示内容等の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 今後はさらに質が高く、かつ来館者のニーズに合った企画や運営を検討していくことに加え、感染対策を行いながらより多くの方が来館しやすい柔軟な入館方法の検討や、来館者サービスの一環として休憩スペースを十分確保した展示・会場構成を検討していく。						

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信																																																
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展																																																
【年度計画】																																																	
・ I-1-(2)-②-1) (4館共通) ア、イ																																																	
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 阿部勝 企画室長 山川暁																																														
【実績・成果】																																																	
<p>ア 来館者へのアンケート調査を実施した。</p> <p>イ 新型コロナウイルス感染予防のため、3年度に引き続き、来館時の注意事項を多言語（日・英・中・韓）やピクトグラムを活用して周知し、安心して観覧できる環境を設定した。</p> <p>○伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・延暦寺根本中堂の一部を展示室内で再現し、寺院の空間を体験できるような工夫を施した。</li> </ul> <p>○特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺—真言密教と南朝の遺産—」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観心寺と金剛寺に伝わる重要文化財指定の甲冑全件を一挙に展示し、印象に残る展示を行うことができた。また、会場内パネル等で社寺調査について紹介し、来館者に調査研究の取組を示すことができた。</li> </ul> <p>○特別展「京に生きる文化 茶の湯」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示室内に豊田秀吉による黄金の茶室と、千利休によるわびの茶室を復元し、両者の個性をひとめで比較できる展示空間を作成することができた。</li> </ul> <p>○親鸞聖人生誕850年特別展「親鸞—生涯と名宝」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親鸞が夢告を受けたとされる六角堂を模した展示台での親鸞聖人坐像の展示や、一展示室内で名号と影像のみを象徴的に見せる展示など、親鸞の生涯を印象づけやすいように展示空間を工夫した。</li> </ul>																																																	
【補足事項】																																																	
			<p>左：「河内長野の霊地」での甲冑一挙展示</p>																																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>【定量的評価】項目</th> <th>4年度実績</th> <th>目標値</th> <th>評価</th> <th rowspan="5">経年変化</th> <th>30</th> <th>元</th> <th>2</th> <th>3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別展の来館者アンケート満足度</td> <td>77.3%</td> <td>82%</td> <td>C</td> <td>94.6</td> <td>80.6</td> <td>73.9</td> <td>80.5</td> </tr> <tr> <td>最澄と天台宗のすべて</td> <td>75.8%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>河内長野の霊地 観心寺と金剛寺</td> <td>83.9%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>京に生きる文化 茶の湯</td> <td>72.1%</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>									【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評価	経年変化	30	元	2	3	特別展の来館者アンケート満足度	77.3%	82%	C	94.6	80.6	73.9	80.5	最澄と天台宗のすべて	75.8%	-	-	-	-	-	-	河内長野の霊地 観心寺と金剛寺	83.9%	-	-	-	-	-	-	京に生きる文化 茶の湯	72.1%	-	-	-	-	-	-
【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評価	経年変化	30	元	2	3																																									
特別展の来館者アンケート満足度	77.3%	82%	C		94.6	80.6	73.9	80.5																																									
最澄と天台宗のすべて	75.8%	-	-		-	-	-	-																																									
河内長野の霊地 観心寺と金剛寺	83.9%	-	-		-	-	-	-																																									
京に生きる文化 茶の湯	72.1%	-	-		-	-	-	-																																									
【年度計画に対する総合評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 3年度からの早朝開館に加え、4年度は特別展で夜間開館も実施し、観覧機会の拡大に努めた結果、来館者数は昨年度を大きく上回った。アンケート調査による来館者満足度調査では、残念ながら目標値を達成できていないが、年度計画では2本であった特別展を3本開催したことは特筆すべき成果であり、全体ではBと評価する。																																														
【中期計画記載事項】 特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。 (京都国立博物館) 年1～2回程度 なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指し、常に展示内容等の改善を図る。																																																	
【中期計画に対する評価】 評価：B			【判定根拠、課題と対応】 各展覧会において、良好な観覧環境を保ちつつ、より見やすく分かりやすく、没入感をもって作品を鑑賞できる環境を提供することができた。アンケート調査による来館者満足度調査では、残念ながら目標値を達成できていないが、夏に自主企画特別展を開催したことにより、中期計画で「年1～2回程度」としている特別展を、3年度に引き続き3回開催したことは特筆すべき成果であり、全体ではBと評価する。																																														

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展							
【年度計画】								
・ I-1-(2)-②-1) (4館共通) ア、イ								
担当部課	総務課	事業責任者	課長 大西真一					
【実績・成果】 (4館共通)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>館内に設置した記述式アンケートの集計結果及びウェブサイトを通じて寄せられた意見・要望を速やかに関係部署で共有し、改善に努めた。</li> <li>定期的に接遇スタッフとの打ち合わせを実施し(7件)、情報共有や意見交換を図りながら、よりよい展覧会運営を目指した。</li> </ul>								
【補足事項】 (4館共通)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>特別展の記述式アンケートの回答者に、かつて作成して在庫となっていたノベルティを贈呈するという方策を立てることで、3年度の回収率が0.6%であったところ、1.6%まで向上させることができた。また、特別展ごとにノベルティの種類を変えることで、高い回収率を維持することができた。</li> </ul>								
								
特別展「中将姫と當麻曼荼羅」 アンケート案内の様子			特別展「大安寺のすべて」ノベルティ しおり5枚組セット					
【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評定	経 年 変 化	30	元	2	3
特別展の来館者アンケート満足度	92.6%	89%	B		89.8	91.4	91.1	93.3
大安寺のすべて	96.4%	-	-		-	-	-	-
中将姫と當麻曼荼羅	96.1%	-	-		-	-	-	-
第74回正倉院展	83.9%	-	-		-	-	-	-
春日大社若宮国宝展	94.1%	-	-	-	-	-	-	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 特別展の記述式アンケートでは、回答者にノベルティを贈呈するという新たな方策を立て、回答率の向上に努めた。また、寄せられた意見・要望については、関係部署で内容を共有した上で適宜改善に努めていることから、着実に計画を実行することができておりB評価とした。5年度以降もアンケート回収率向上を図り、来館者の声を館の運営により反映できるように努める。							
【中期計画記載事項】 特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。 (奈良国立博物館) 年2～3回程度 なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指し、常に展示内容等の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 4年度に開催した特別展における来館者満足度は、3年度に引き続き、目標値及び前期中期目標の期間の実績を上回っており中期計画を順調に遂行した。5年度以降も引き続き来館者の意見・要望を参考に、特別展における満足度の向上に努めていく。							



中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展							
【年度計画】								
・ I-1-(2)-②-1) (4館共通) ア、イ								
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	課長 伊藤信二					
【実績・成果】 (4館共通) ア 特別展の開催にあたって、来館者アンケートを実施した。 ・ 特別展「北斎」では88.4%の満足度を得た。北斎の多面的な画業を文化交流の観点も加えて紹介し、国内で初めて一般公開した「日新除魔図」(宮本家本)や同図の写真撮影を許可して満足度を高め、来館者が飛躍的に伸びた。 ・ 特別展「琉球」では90.8%の満足度を得た。本展は沖縄本土復帰50年記念という時宜を得た企画で、東京国立博物館との巡回展であった。文化交流拠点であった琉球は、開館以来、当館が調査研究や展示、作品収集に一貫して取り組んできた。沖縄県関係機関とも協力した本展は、研究の到達点を存分に反映し高く評価された。 ・ 特別展「ポンペイ」では、90.8%の満足度を得た。本展は東京国立博物館、京都市京セラ美術館、宮城県美術館、当館の順に巡回したが、古代ポンペイの遺品という稀少性だけでなく、特別展示室の特性を十分に活かした展示ディスプレイを工夫して魅力的な展示空間を演出し、高い満足度となった。 ・ 特別展「加耶」においては、86.0%の満足度を得た。本展は国立民俗学博物館との巡回であったが、当館では巡回作品による第一部「加耶の興亡」に加えて、国内所蔵作品による第二部「渡来人」を追加することで、視覚的・学術的に厚みを増した展示となり、当館としては記録的な図録販売率となるなど高い満足度を得た。								
【補足事項】								
【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評価	経 年 変 化	30	元	2	3
特別展の来館者アンケート満足度	89.0%	87%	B		86.7	84.0	89.2	89.2
北斎	88.4%	-	-		-	-	-	-
琉球	90.8%	-	-		-	-	-	-
ポンペイ	90.8%	-	-		-	-	-	-
加耶	86.0%	-	-	-	-	-	-	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 全ての特別展で目標値を超える満足度を得た。いずれも、当館の独自性を反映したテーマ設定やディスプレイ、分かり易いグラフィックパネル、各種イベントの開催などに取り組み、高い満足度を得た。この実績から年度計画は達成できたとし、B評価とした。							
【中期計画記載事項】 特別展等については、積年の研究成果を活かしつつ、国民の関心の高い時宜に適った企画を立案し、国内外の博物館と連携しながら我が国の中核的拠点にふさわしい質の高い展示を行う。 特別展の来館者数については、展示内容・展覧環境を踏まえた目標を年度計画において設定する。また、特別展等の開催回数は概ね以下のとおりとし、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、その達成に努める。 (九州国立博物館) 年2～3回程度 なお、特別展来館者アンケートを実施し、その満足度については、前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指し、常に展示内容等の改善を図る。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 年度通算では目標値を越える満足度を得ており、中期計画に基づいて着実に事業推進が来ているため、左記の評価とした。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展			
【年度計画】 ア 特別展「空也上人と六波羅蜜寺」(4年3月1日～5月8日) (目標来館者数3万人)				
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部長 浅見龍介	
【実績】		 <p>告知ポスター</p>		
展覧会名	特別展「空也上人と六波羅蜜寺」			
会 期	3月1日(火)～5月8日(日)(62日間)			
会 場	東京国立博物館 本館特別5室			
主 催	東京国立博物館、六波羅蜜寺、朝日新聞社、テレビ朝日、BS朝日			
作品件数	17件(うち重要文化財10件)			
来館者数	146,085人(目標値5万人、達成率292.2%) ※本項の数値は全て3年度と4年度の値を合わせた通期の数値としている。			
入場料金	一般 1,600円、大学生 900円、高校生 600円、中学生以下無料			
アンケート結果	満足度86.4%			
【成果】				
企画構成 展示作品	空也上人は、平安前期に阿弥陀信仰をいち早くひろめた僧侶であり、市井の人々に救いの道を示したので、市の聖、阿弥陀聖と呼ばれた。空也上人が、京都東山に創建した六波羅蜜寺には、上人の像が伝わる。本年は空也上人没後1050年にあたり、空也上人立像を公開するほか、空也上人のもとで造られた四天王立像、定朝作とされる地藏菩薩立像、運慶作の地藏菩薩坐像など、平安から鎌倉時代の彫刻の名品を展示し、六波羅蜜寺の歴史と美術を通して、信仰の厚みにも思いをはせる機会とする。			
学術的意義	本展の終了後、六波羅蜜寺では新しい宝物館が開館し、当館研究員は返却と同時に展示指導を行った。空也上人像、伝定朝作地藏菩薩立像、伝平清盛坐像等のX線CT調査を実施した。その報告は『MUSEUM』に発表する予定である。			
教育普及	4月2日に特別展「空也上人と六波羅蜜寺」記念講演会(於平成館大講堂)を開催した。講師：六波羅蜜寺山主川崎純性			
その他 (運営・広報・サービス等)	報道内覧会：2月28日(月)185名出席。ポスター、チラシ、DMを制作。交通広告：JR山手線8駅9面ほか、SNS・WEB広告：Facebook/Instagramフィード、Twitterプロモツイート、LINE広告、YouTube トゥルービューインストリーム広告出稿。新聞：朝日新聞イベントガイド、特集紙面ほか、雑誌：生活の友社「美術の窓2021年12月号」、新潮社「芸術新潮2021年12月号」、生活の友社「美術の窓3月号」、日経BPマーケティング「日経おとなのOFF別冊2022年絶対見逃せない美術展」、JR東日本「大人の休日倶楽部」、時空旅人「大人が観たい美術展2022」、メディカルクオール「月刊メディカルクオール4月号」ほか、テレビ：NHK「日曜美術館アートシーン」、BS日テレ「ぶらぶら美術・博物館」、テレビ朝日「じゅん散歩」、テレビ朝日「中居正広のニュースな会」、テレビ東京「出没!アド街ック天国」、TBS「東大王」などで放映。その他、TVCM、当館公式ウェブサイト、博物館ニュース、展覧会公式ウェブサイト、展覧会公式Twitter等で情報発信を実施した。			
補 足	 <p>会場内画像</p>  <p>会場内画像</p>			
【定量的評価】項目	4年度実績	目標値		
来館者アンケート満足度	86.4%	86%		
【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染症の拡大防止策として日時指定制を行わざるを得ない状況であったが、開館時間の延長も行き、目標値を大きく上回る来館者を迎えることができた。また空也上人立像をはじめとする平安から鎌倉時代の彫刻の名品を展示することで、空也上人と六波羅蜜寺に関する高品質な展示を行うことができ、学術的にも意義の深いものとなった実績を踏まえ、A評価とした。			

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展		
【年度計画】 イ 沖縄復帰50年記念特別展「琉球」(5月3日～6月26日) (目標来館者数5万人)			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部企画課出版企画室主任研究員 三笠景子
【実績】			
展覧会名	沖縄復帰50年記念特別展「琉球」		 <p>告知ポスター</p>
会期	5月3日(火・祝)～6月26日(日)(48日間)		
会場	東京国立博物館 平成館		
主催	東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社、文化庁		
作品件数	289件(うち国宝60件、重要文化財17件)		
来館者数	90,395人(目標値5万人、達成率180.8%)		
入場料金	一般2,100円、大学生1,300円、高校生900円、中学生以下無料		
アンケート結果	満足度85.3%		
【成果】			
企画構成 展示作品	令和4年(2022)は沖縄県の復帰50年という節目の年に当たるため、これを記念して、強く輝き続ける琉球の歴史と文化を過去最大規模の展覧会を通じて紹介する。本展は、アジアにおける琉球王国の成立、及び文化の形成と継承の意義について、第1章「万国津梁 アジアの架け橋」、第2章「王権の誇り 外交と文化」、第3章「琉球列島の先史文化」、第4章「しまの人びとと祈り」、第5章「未来へ」という構成で文化財を通じて紹介するものである。		
学術的意義	本展は、書画、工芸、考古、民族、歴史資料の多岐にわたる分野から、琉球の歴史と文化を取り上げたかつてない規模の展覧会である。最新の琉球・沖縄研究を反映した内容に加え、失われた琉球の美術工芸を復興させ、未来へ継続するべく活動を行っている様々な技術者の現在の取り組みに触れた点においても、文化財の公開、及び保護の観点から学術的意義は大きい。		
教育普及	ジュニアガイド『沖縄復帰50年記念特別展 琉球』を編集するとともに、Webサイトに掲載した。会場配布2,500部、学校等配布65,766部。 6月10～11日までの2日間、連続講座「未来へつなぐ琉球・沖縄文化」(於平成館大講堂)を開催した。参加者数317名。		
その他 (運営・広報・サービス等)	報道内覧会(124媒体162名出席)東京/九州会場先行チラシ(A4)本チラシ(A3折)ポスター(B1・B2・B3)制作、マスコミ、博物館等にDM発送、読売新聞紙上での紹介及び朝日新聞広告出稿、読売本社1階マルチビジョン、有楽町Bic Vision及びテレビスポット広告、JR及び各私鉄交通広告を実施したほか、公式WEBサイト、SNSアカウントで情報発信を行った。また、NHK「日曜美術館」ほか民放ニュースで放映され、ニコニコ生放送の配信も行った。また「芸術新潮」「和楽」「サライ」「時空旅人」などに紹介記事が掲載された。		
補足	 <p>会場風景 第2章「王権の誇り 外交と文化」</p>  <p>会場風景 第5章「未来へ」</p>		
【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	
来館者アンケート満足度	85.3%	86%	
【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 展覧会の準備期間は、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い国内の移動制限もあったが、巡回館である九州国立博物館や沖縄県内の研究者とリモート会議などによる協議を重ねて、沖縄復帰50年にふさわしく、琉球の歴史を辿り、総合的に琉球の文化や芸術を紹介する作品を集めた画期的な展覧会を開催することができた。アンケート満足度は目標値に達しなかったものの、沖縄県が長年にわたって取り組んできた文化財保護の取り組みを紹介できた意義は大きいと判断し、A評価とした。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展		
【年度計画】	ウ 東京国立博物館創立150年記念特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」(10月18日～12月11日) (目標来館者数8万人)		
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部列品管理課登録室長 佐藤寛介
【実績】			
展覧会名	東京国立博物館創立150年記念特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」		
会 期	10月18日(火)～12月18日(日)(54日間) ※予定会期を1週間延長した。		
会 場	東京国立博物館 平成館		
主 催	東京国立博物館、毎日新聞社、NHK、NHKプロモーション、独立行政法人日本芸術振興会、文化庁		
作品件数	150件(うち国宝89件、重要文化財27件)		
来館者数	351,153人(目標値8万人、達成率438.9%)		
入場料金	一般：2,000円、大学生：1,200円、高校生：900円		
アンケート結果	満足度91.9%		
			
	告知ポスター		
【成果】			
企画構成 展示作品	当館は日本で最も長い歴史をもつ博物館である。令和4年(2022)は当館の創立150年の節目に当たる年であり、これを記念して、約12万件という膨大な所蔵品の中から国宝89件すべてを含む名品と、当館の歴史を物語る関連資料を紹介する展覧会を開催する。展覧会は2部から構成され、第1部「東京国立博物館の国宝」では当館が所蔵するすべての国宝を公開し、第2部「東京国立博物館の150年」では明治から令和に至る博物館150年の歩みを3期に分けて紹介する。		
学術的意義	国宝に代表される名品と150年の歴史を組み合わせ、当館の全体像を多角的に紹介したことの学術的意義は計り知れない。作品解説では各分野における最新の調査研究成果を反映させるとともに、伝来や収蔵時期、修理記録などを併記することで当館の文化財コレクションの成り立ちと博物館の社会的役割を紹介した。本展は当館のみならず、日本の博物館の来し方行く末の大きな道標になるものといえる。		
教育普及	ジュニアガイド『トーハクものがたり』を編集、刊行するとともに、Webサイトに掲載した。会場配布10,000部、学校等配布21,530部。また下敷きも編集した。会場配布数10,000部。11月24日に記念講演会「特別展『国宝 東京国立博物館のすべて』見どころ解説」(於平成館大講堂)を開催した。講師：副館長 富田淳、登録室長 佐藤寛介、列品管理課長 沖松健次郎、百五十年編纂室長 恵美千鶴子、平常展調整室研究員 増田政史。参加者数300名。		
その他 (運営・広報・サービス等)	報道内覧会：5月20日(金)75名出席。ポスター・チラシ制作、DM発送実施。交通広告：東京メトロ電飾ボード3駅、JR駅NTボード24駅25面など出稿。新聞：毎日新聞特集紙面・作品紹介連載(全10回)ほか。雑誌：「芸術新潮」「美術の窓」「文藝春秋」「和楽」「サライ」「ノジュール」などに掲載。テレビ：NHK「生中継!8K特別内覧会」「東京国立博物館150年 “推し”の国宝 大公開!」「日曜美術館」「チョコちゃんに叱られる!」「有吉のお金発見 突撃!カネオくん」、BS日テレ「ぶらぶら美術館・博物館」、日本テレビ「1億3000万人のSHOWチャンネル」などで放映。その他、TV・ラジオCM、新聞広告、WEB広告等を展開。当館公式ウェブサイト、展覧会公式ウェブサイト、SNSでも情報発信を実施。展覧会公式Twitterでは開幕まで1日1件、本展で公開される全国宝を紹介するなどの企画を実施した。		
補 足	 第1部 展示風景 (国宝刀剣)  第2部 展示風景 (皇室ゆかりの作品)		
【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	
来館者アンケート満足度	91.9%	86%	
【年度計画に対する総合評価】 評価：A	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染拡大予防のため、日時指定を導入したが、来館者数・アンケート満足度ともに目標値を大幅に超えた。予約が取れなかった観覧希望者の多大な要望を受けて、館員一同が作品の保存や運営にかかる検討を行い、1週間の会期延長という対応ができた。東京国立博物館創立150年を記念するとともに、未来に期待を感じさせる企画となった。		



中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展		
【年度計画】			
エ 日中国交正常化50周年記念特別デジタル展「故宮の世界」(7月26日～9月19日) (目標来館者数3万人)			
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸企画部企画課特別展室長 猪熊兼樹
【実績】			
展覧会名	日中国交正常化50周年記念特別デジタル展「故宮の世界」		
会 期	7月26日(火)～9月19日(月・祝)(50日間)		
会 場	東京国立博物館 平成館		
主 催	東京国立博物館、故宮博物院、凸版印刷株式会社		
作品件数	23件(うち重要文化財1件)		
来館者数	27,839人(目標値3万人、達成率92.8%)		
入場料金	一般 1,500円、大学生 900円、TNM&TOPPANミュージアムシアターセット券 1,800円		
アンケート結果	満足度63.7%		
告知ポスター			
【成果】			
企画構成 展示作品	本年(2022年)が日中国交正常化50周年の節目に当たるのを記念して、故宮博物院と当館、そして両者と長年にわたり共同研究を行ってきた凸版印刷が共同で、紫禁城をテーマにした特別デジタル展を開催する。第1章は「デジタル故宮博物院」として、清時代の紫禁城の一部をデジタル空間で再現し、故宮が収蔵する名品をデジタルデータで紹介する。第2章は「紫禁城の書画工芸」として、当館が管理する清朝皇帝の愛蔵品や紫禁城で鑑賞され用いられていた書画工芸を紹介する。		
学術的意義	故宮博物院と凸版印刷は20年にわたって紫禁城の宮殿や文物のデジタルアーカイブデータを構築しており、その成果を活用して宮殿の再現VRや高精細な文物のデジタル展示を行った。特に本展のための新開発として、名画「千里江山図」を高さ約3m、幅約22mの大画面に映すことで、通常であれば脳内で想像する雄大な景色を、実際に眼前に展開するという実験的な展示を行った。またデジタル展示を補完するため、当館が管理する書画工芸を清時代の紫禁城というテーマのもとに選りすぐって展示した。これらの展示内容は故宮博物院と凸版印刷と意見交換を行いながら作り上げたもので、デジタル展示の将来や課題について検討する好機となった。		
教育普及	会期中にTNM & TOPPAN ミュージアムシアターにおいて「故宮VR 紫禁城・天子の宮殿」を上演した。		
その他 (運営・広報・サービス等)	報道内覧会：7月25日(月)47人参加。ポスター、チラシ制作、DM実施。新聞：朝日新聞、日本経済新聞。テレビ：テレビ朝日「ゴーちゃん。Lab.」8/28放映。展覧会公式ウェブサイト、SNS(Twitterのみ)にて情報発信。当館ウェブサイト「1089ブログ」ページにて、本展の紹介を5回実施。本展については想定来館者数を検討した結果、予約不要で入場可能とした。また、来館者数増加のために総合文化展料金で入場した来館者について、本展との差額料金を観覧可能とする措置をとった。		
補 足	   <p>第1章「デジタル故宮博物院」の展示</p> <p>第2章「紫禁城の書画工芸」の展示</p>		
【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	
来館者アンケート満足度	63.7%	86%	
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】		
評定：B	当初は日中国交正常化50周年を記念して、故宮博物院の名品を紹介する展覧会を企画していたが、新型コロナウイルス感染拡大予防のために作品の輸送が困難な状況が続いたため、故宮博物院と協議した結果、急遽方針転換をしてデジタル展示を開催することとした。アンケート満足度・来館者数ともに目標値には届かなかったものの、限られた条件のなかで展示方法について工夫を凝らし、最新の技術を用いた画期的な展覧会が実現できたといえる。今後もデジタル展示の長所を見極めながら、いかに展示空間を構成する要素とするか検討していきたい。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展		
【年度計画】	エ 特別企画「大安寺の仏像」(5年1月2日～3月19日)		
担当部課	学芸企画部企画課	事業責任者	学芸研究部列品管理課平常展調整室研究員 増田政史
【実績】			
展覧会名	特別企画「大安寺の仏像」		
会 期	5年1月2日(月・休)～3月19日(月)(66日間)		
会 場	東京国立博物館 本館11室		
主 催	東京国立博物館、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁		
作品件数	15件(うち重要文化財7件)		
来館者数	177,515人 ※本企画のみの入館者数は計測していないため、本企画期間の本館の入館者数を採用した。		
入場料金	一般 1,000円、大学生 500円 ※総合文化展料金		
アンケート結果	アンケートなし		
	告知ポスター		
【成果】			
企画構成 展示作品	奈良市にある大安寺は日本最初の国立寺院であり、国際色豊かな環境で多くの優秀な僧侶たちを育てた仏教研究の中心拠点として栄えた。大安寺に伝わる木彫の仏像群は、いずれも一木造で優れた身体表現や細やかな彫りに奈良時代の木彫像の特色が表れている。本展では、大安寺に伝わる仏像のほか、大安寺出土の瓦などもあわせて展示し、日本仏教の源流ともいべき大安寺の歴史を紹介する。		
学術的意義	本展では、奈良・大安寺に伝わる貴重な奈良時代の木彫像7軀を中心に展示した。平安時代以降に主流となる木彫像の先駆的な作例として木の性質を生かした表現や特徴などを解説し、日本最初の国立寺院である大安寺の歴史をパネルや動画などで紹介することができた。また会期前に出品作品のX線CT調査を実施し、今後の研究資料の作成を行うこともできた。		
教育普及	特別企画「大安寺の仏像」講演会の一環として、YouTube動画「大安寺仏像の魅力」(講師：平常展調整室研究員 増田政史)の配信を行った。再生回数約1500回(5年3月19日時点)。また2月16日に記念講演会「大安寺の歴史と仏像」(於平成館大講堂)を開催した。講師：大安寺貫主 河野良文、平常展調整室研究員 増田政史。参加者数約350名。		
その他 (運営・広報・サービス等)	JR東京駅サイネージ広告(1/2～2/5)、上野駅サイネージ広告(1/2～31)、@プレスにてプレスリリース発信、各種ニュースサイトおよび『月刊うえの』、『大人のおしゃれ手帖』などに掲載。		
補 足	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>会場風景 (ケース内展示)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>会場風景 (露出展示)</p> </div> </div>		
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 日本仏教の源流ともいべき奈良・大安寺に伝わる貴重な奈良時代の木彫像について最新の研究成果に基づいて紹介することができた。また仏像に留まらず、大安寺出土の瓦(当館所蔵)やパネル・動画などを利用して、大安寺の歴史についても紹介することができた。学術的にも意義のある調査が実施できたほか、解説にも工夫を凝らし、教育普及についても一定の成果をあげることができたため、B評定とした。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】 I-1-(2)-②-1) (東京国立博物館)			
担当部課	総務部総務課 学芸研究部調査研究課	事業責任者	課長 竹之内勝典 課長 松嶋雅人
【実績】			
展覧会名	「150年後の国宝展—ワタシの宝物、ミライの宝物」		
会 期	11月2日(水)～5年1月29日(日)(72日間)		
会 場	表慶館		
主 催	東京国立博物館		
作品件数	一般公募67件、出展協力企業展示31件		
来館者数	178,525人		
入場料金	一般 1,000円、大学生 500円 ※総合文化展料金		
アンケート結果	満足度92.1%		
 キービジュアル			
【成果】			
企画構成 展示作品	今から150年後の西暦2172年に伝え残していきたい国宝候補を、その背景のストーリーと共に展示するものである。一般部門及び企業部門から構成される。一般部門は「ワタシの宝物、ミライの宝物」というテーマで一般公募を行い、その中から当館を選んだものを展示。企業部門については、展覧会に出展協力いただいた企業と、当館にてどのような国宝候補が適当かを協議の上、展示を行った。		
学術的意義	長い歴史の中で生まれた文化・芸術をアーカイブする装置である博物館は、過去を今の人たちに伝えることが大きな使命である。本展は、そのような使命とは若干異なり、過去を保存する装置である博物館が未来をみつめることを意図したプロジェクトとして計画した。 文化財ではないものを展示すること、そして、わたしたち一人ひとりが大切に思うものとして未来に託すこと、これらは、時代や文化が変わっていく中で、文化財のあり方も変わっていくのではないかという提言であり、歴史が点ではなく線であることを意識し、今の身の回りのものが未来の国宝になるかもしれないという日常と非日常の交差を体験することを意図している。		
教育普及	11月20日、吉本興業(株)と大講堂にて漫才に関するワークショップを実施。5年1月13日、大講堂にてキッコーマン(株)と醤油に関する講演会を実施。(株) BANDAI SPIRITSと5年1月21、22、28、29日、平成館ラウンジ等にて廃材を利用した環境に配慮したプラモデル製品に関するワークショップを実施した。		
その他 (運営・広報・サービス等)	5年1月1日には、NHKの元旦番組「2023年新春！ ニッポン”ふるさと”リレー」にて生中継を行うほか、日本テレビ「news zero」、TBSテレビ「ひるおび」など、多くの番組で取り上げられた。また、正門プラザでは本展のオリジナルグッズや企業の関連商品の販売を行った。11月20日、吉本興業(株)と大講堂にて漫才イベントを実施。11月23日、JRAの協力によりポニーふれあい体験イベントを実施。5年1月12日、応挙館にてKDDIとトークイベントを実施。		
補 足	 会場写真		
	 会場写真		
【年度計画に対する総合評価】 評定：S	【判定根拠、課題と対応】 本展により従来の展覧会事業とは異なる視点から、文化財の未来を考える機会を提供できたことに加え、広報及び物販、イベントは当初の想定以上に実施することができた。また、本展は企業の出展協力を募ることで資金調達を行う特異な事業スキームにより実施に至った。以上のことから、質的にも量的にも大きく目標を超えたことと評価する。本展で醸成された企業と連携する風土については、今後も生かしていきたい。		




中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展		
【年度計画】	ア 伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」(4月12日～5月22日) (目標来館者数5万人)		
担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長 大原 嘉豊
【実績】			
展覧会名	伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」		
会 期	4月12日(火)～5月22日(日)(36日間)		
会 場	京都国立博物館 平成知新館		
主 催	京都国立博物館、天台宗、比叡山延暦寺、読売新聞社、読売テレビ、文化庁		
作品件数	130件(うち国宝23件、重要文化財72件、重要美術品0件)		
来館者数	43,235人(達成率:86.5%)		
入場料金	一般 1,800円、大学生 1,200円、高校生 700円		
アンケート結果	満足度75.8%		
	 <p>告知チラシ</p>		
【成果】			
企画構成 展示作品	<p>最澄の遠忌にちなみ、日本における天台宗の歴史を通時的に俯瞰する展覧会として企画した。東京・九州国立博物館を巡回する展覧会であることを踏まえ、展示では各館の立地に即して、全国に展開した天台宗の地域的独自性をも示すべく、京都会場は畿内・北陸に焦点を当てることとした。</p> <p>章構成 Ⅰ 最澄と天台宗のはじまり、Ⅱ 教えのつらなり—最澄の弟子たち、Ⅲ 全国への広まり—各地に伝わる天台の至宝、Ⅳ 信仰の高まり—天台美術の精華 Ⅴ 教学の深まり—天台宗思想が生んだ多様な文化、Ⅵ 現代へのつながり—江戸時代の天台宗</p> <p>展示作品 重文・薬師如来立像(京都・法界寺)、重文・日吉山王金銅装神輿(滋賀・日吉大社)等、三会場での総件数は232件、そのうち当館展示件数は130件</p>		
学術的意義	<p>宗祖である最澄の遠忌を記念するという展覧会の性格から、主催者として天台宗の参加があり、延暦寺国宝殿をはじめとする宗門側の全面的な支援を受けることができたため、これまで公開されていなかった多数の秘仏等の出展が実現した。またとないこの機会を活かすべく、東京・九州・京都の3国立博物館で緊密に連携し、写真撮影やX線CT撮影を手分けして行い、その成果を写真パネルや3Dプリンターで作成した模型として展示するなど、最新の調査・研究成果を展示に盛り込むことが出来た。</p>		
教育普及	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記念講演会(4回) 下記の通り実施し、各回100名ほどが参加した。 4月16日【対談】「伝教大師最澄を語る」阿部 昌宏氏(天台宗 宗務総長)、露(つゆ)の団姫(まるこ)氏(落語家、天台宗道心寺 住職)、【落語】「仏教落語」露の団姫氏 4月23日【対談】「日吉大社山王祭と神輿」須原 紀彦氏(日吉大社 禰宜)、末兼 俊彦(当館 主任研究員) 5月7日「天台宗の信仰と仏画」大原 嘉豊(当館 保存修理指導室長) 5月14日「天台のみほとけたち」浅瀬 毅(当館 上席研究員)</li> <li>・鑑賞ガイドを多言語(日・英・中・韓)で作成し配布した。</li> <li>・キャンパスメンバーズ会員校の学生及び教職員を対象に、本展覧会の見どころなどを解説する講演会を開催した。</li> </ul>		
その他 (運営・広報・サービス等)	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、展覧会会期中も運営・広報などについて、共催者間で緊密に協議を重ねた。広報面では、各種新聞・雑誌で展覧会紹介記事の掲載があり、虎ブログには3回の記事掲載を行った。</p>		
補 足			
【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	
来館者アンケート満足度	75.8%	82%	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	<p>【判定根拠、課題と対応】 アンケート調査による来館者満足度調査では形の上で目標値を達成できていないが、空調に対する評価の低さが満足度を下げており、展示に関する主要項目(展示品・展示方法・解説文)の満足度平均は81.7%であることや、最新の調査・研究を反映した展覧会とできたことから、Bと評価する。アンケートについては、展示全体に対する評価を正しく引き出せる形式への変更が、5年度以降の課題である。</p>		



中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1)特別展		
【年度計画】			
イ 特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺—真言密教と南朝の遺産—」(7月30日～9月11日) (目標来館者数3万人)			
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室研究員 井並林太郎
【実績】			
展覧会名	特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺—真言密教と南朝の遺産—」		
会 期	7月30日(土)～9月11日(日)(38日間)		
会 場	京都国立博物館 平成知新館		
主 催	京都国立博物館		
作品件数	130件(うち国宝4件、重要文化財31件、重要美術品3件)		
来館者数	28,211人(達成率:94.0%)		
入場料金	一般1,200円、大学生600円、高校生300円		
アンケート結果	満足度83.9%		
告知チラシ			
【成果】			
企画構成 展示作品	<p>大阪・河内長野市の真言宗寺院である観心寺と金剛寺の文化財を特集した。両寺は高野山へつづく複数の街道が合流する地域に位置し、南北朝時代には後村上天皇の行宮となった。そのため、古代から近世にかけての密教美術のほか、武将・楠木正成をはじめとする南朝ゆかりの遺品が数多く伝えられている。当館が平成28年度(2016)から令和元年度(2019)にかけて実施した文化財悉皆調査(科研)の成果公開を兼ね、すでに知られた名品に新出作品を加えて構成することによって歴史を通覧し、文化財や寺、ひいては地域の歴史的・文化的な意義を発信した。</p> <p>構成:第1章 真言密教の道場 第2章 南朝勢力の拠点 第3章 河内長野の霊地</p> <p>展示作品:国宝 観心寺勘録縁起資財帳(観心寺蔵)、国宝 日月四季山水図屏風(天野山金剛寺蔵)、重要文化財 伝坐生如来坐像(観心寺蔵)、重要文化財 腹巻及膝鎧(天野山金剛寺蔵)、重要文化財 観心寺縁起(観心寺蔵)、重要文化財 遊仙窟(一部新発見、天野山金剛寺蔵)、厨子入愛染明王坐像(新発見、天野山金剛寺蔵)など全130件</p>		
学術的意義	<p>本展の前提となった4年間の悉皆調査(科研)は、日本史・仏教史・美術史いずれにおいても重要な2つの寺の伝来文化財を整理し、また歴史的に位置づけて報告書を刊行するというもので、新発見作品をはじめとして多くの学術的な知見が得られた事業であった。本展は、一般の人々が入手しづらく、また実物から直接情報が得られないという報告書の欠点を補うかたちで、幅広い分野に関わる豊富な調査成果を世間に発信できる機会となった。とくに金剛寺に伝わる重文の甲冑20件を全て1部屋に並べ、大量の中世武具を比較検討することが可能となったのは実物の展示ならではの機会であった。観心寺の大壇具など近世の作品も多く取り上げ、京都と歴史的に繋がりのある地域寺院の営みを通史的に明らかにしようとした本展は、10年ぶりの自主予算による特別展として独自性も高く、学術的意義のきわめて大きい展覧会であったといえる。</p>		
教育普及	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記念講演会(5回) 下記の通り実施を行い、各回100名ほどが参加した。 7月30日「観心寺・金剛寺と南北朝動乱」尾谷 雅彦氏(元河内長野市教育委員会) 8月20日「観心寺・金剛寺の歴史と文化財調査」井並 林太郎(当館 研究員) 8月27日「観心寺・金剛寺の金属工芸」末兼 俊彦(当館 主任研究員) 9月3日「観心寺・金剛寺の聖教」上杉 智英(当館 研究員) 9月10日「真言密教のみほとけたち—観心寺・金剛寺を中心に—」浅湫 毅(当館 上席研究員)</li> <li>・鑑賞ガイドを多言語(日・英・中・韓)で作成し配布した。</li> <li>・キャンパスメンバーズ会員校の学生及び教職員を対象に、本展覧会の見どころなどを解説する講演会を開催した。</li> </ul>		
その他 (運営・広報・サービス等)	<p>展覧会会期中は、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めるべく観覧者の時間的分散を図るとともに、観覧機会の拡大に努めるべく夜間開館を行った。広報等については、各種新聞、雑誌で展覧会紹介記事が掲載され、虎ブログについては3回の記事掲載を行った。また、河内長野市と連携し、双方の媒体で展覧会情報を発信した。</p>		
補 足			
【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	
来館者アンケート満足度	83.9%	82%	
【年度計画に対する総合評価】 評価:A	【判定根拠、課題と対応】 研究員が主体的・長期的に寺院の文化財悉皆調査を行い、その成果を一般に還元するという順序で実施した本展は、文化財保護・研究・情報発信を使命とする当館にとってひとつの理想的な形であったといえる。10年ぶりの自主予算による特別展であったが、各部署の連携によって円滑に準備を進め、運営面では新型コロナウイルスによる影響のなか、夜間開館を実施し、感染症対策に努めることで来館者に安全を配慮した形での展覧会を開催することができた。来館者数は目標値にわずかに及ばなかったが、図録が売り切れとなるなど、来場者の多くが観覧によって関心を深めたことが窺えるため、特にAと評価した。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展		
【年度計画】	ウ 特別展「京に生きる文化 茶の湯」(10月8日～12月4日) (目標来館者数5万人)		
担当部課	学芸部	事業責任者	調査・国際連携室長 降矢 哲男
【実績】			
展覧会名	特別展「京に生きる文化 茶の湯」		 <p>告知チラシ</p>
会 期	10月8日(土)～12月4日(日)(50日間)		
会 場	京都国立博物館 平成知新館		
主 催	京都国立博物館、読売新聞社、文化庁		
作品件数	245件(うち国宝27件、重要文化財74件、重要美術品2件)		
来館者数	91,675人(達成率:183.4%)		
入場料金	一般1,800円(1,600円)、大学生1,200円(1,000円)、高校生700円(500円)		
アンケート結果	満足度72.1%		
【成果】			
企画構成 展示作品	国内外を問わず多くの人々が訪れる国際観光都市・京都は、社寺建築や美術工芸などの歴史遺産や茶道、華道、能、狂言、舞踊などの伝統文化が今も生きている。中でも茶の湯は、平安時代末頃に中国からもたらされたものであるが、鎌倉・南北朝・室町時代と時代が進むなかで徐々に和様化し、現在では日本文化を象徴するものとして世界で認知されるまでになっている。本展では、現在でも多くの茶道の家元が本拠とし、また茶の湯の歴史のなかで中心的な役割をもった京都の地で、喫茶文化として生まれ、時代の要請に応じて変化した、茶の湯という独自の文化の形成過程を、国宝27件、重要文化財74件をはじめ計245件の作品によって展示した。		
学術的意義	「茶の湯」という日本独自の文化は、京都を中心として形づくられたものである。これまで、茶の湯に関する展覧会は数多く行われてきてはいるが、その形成の中心地といえる京都に視点を当て、各時代における変化や画期などを大規模に、そして通史的に構成した展示はこれまでにはなかった。また、展示室内において、古い喫茶風習を色濃く残す四頭茶礼や唐物を賞玩した会所などの設えを復元的に展示し、精巧につくられた黄金の茶室と侘びの茶室(国宝・待庵の復元)とを対比できるようにするなど、来館者が当時の空間を体感しつつ、展示作品について理解を深められるよう工夫した。		
教育普及	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記念講演会(7回) 下記の通り実施を行い、各回200名ほどが参加した。 10月15日「利休の懐石」筒井 紘一氏(京都府立大学 客員教授、茶道資料館 顧問) 10月22日「京に生きる文化 茶の湯—歴史とその背景—」降矢 哲男(当館 調査・国際連携室長) 10月29日「日本の茶文化における中国絵画受容」森橋 なつみ(当館 研究員) 11月5日「京都における数寄者と茶の湯」谷 晃氏(野村美術館 館長) 11月12日「天下人と茶の湯」竹本 千鶴氏(國學院大學 兼任講師) 11月19日「京都における公家と茶の湯—そのはじまりと展開—」谷端 昭夫氏(湯木美術館 理事) 12月3日「中世の文書と典籍にみる「茶」」羽田 聡(当館 列品管理室長兼美術室長)</li> <li>・鑑賞ガイドを多言語(日・英・中・韓)で作成し配布した。</li> </ul>		
その他 (運営・広報・サービス等)	展覧会会期中は、新型コロナウイルス感染拡大防止に努める必要もあり、展覧会共催者ともその運営や広報などについて協議を重ね、夜間開館を実施して展示室混雑緩和を図ることとした。広報等については、各種新聞、雑誌で展覧会紹介記事が掲載され、虎ブログについては3回の記事掲載を行った。		
補 足			
【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	
来館者アンケート満足度	72.1%	82%	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	<b>【判定根拠、課題と対応】</b> 展示室が一時混雑することもあったが、夜間開館の実施を含め感染症対策に努めることで、来館者の安全に配慮して展覧会を開催することができた。アンケート調査による来館者満足度調査では、形の上で目標値を大きく下回ってしまったが、空調に対する評価の低さが満足度を下げており、展示に関する主要項目(展示品・展示方法・解説文)の満足度平均は80.3%と8割を達成していることに加え、新型コロナウイルス感染症の影響が未だ残る中で、目標値の1.8倍以上の来館者があったことから、Bと評価する。アンケートについて、展示全体に対する評価を正しく引きだせる形式への変更が、5年度以降の課題である。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展		
【年度計画】	ア 特別展「大安寺のすべて—天平のみほとけと祈り—」(4月23日～6月19日) (目標来館者数5万人)		
担当部課	学芸部	事業責任者	企画室長 中川あや
【実績】			
展覧会名	特別展「大安寺のすべて—天平のみほとけと祈り—」		
会 期	4月23日(土)～6月19日(日)(51日間)		
会 場	奈良国立博物館 東新館・西新館		
主 催	奈良国立博物館、日本経済新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿		
作品件数	124件(うち国宝10件、重要文化財50件)		
来館者数	32,971人(達成率:65.9%)		
入場料金	一般1,800円(1,600円)、高校・大学生1,500円(1,300円)、小・中学生800円(500円) ※( )は前売料金		
アンケート結果	満足度 96.4%		
	 <p>告知チラシ</p>		
【成果】			
企画構成 展示作品	わが国最初の天皇発願の寺を原点とし、平城京に壮大な寺地と伽藍を構えた大安寺の歴史を、寺宝、関連作品、発掘調査成果など様々な角度から紹介した展覧会。全5章からなり、大安寺の前史、奈良時代の大安寺の威容、失われた大安寺釈迦如来の実像、大安寺を行き交う僧侶と信仰、中世以降の大安寺という様々な観点から、種々の文化財を織り交ぜて、大安寺の歴史上の存在感を感じさせる内容とした。また、大安寺制作の最新の天平伽藍CG映像を公開し、往時の伽藍の姿とゆかりの文化財とを関連付けて理解を促進する空間作りを行った。		
学術的意義	本展は、南都七大寺の一つである大安寺を取り上げた、初めての大規模な展覧会である。現在大安寺が所蔵する彫刻や絵画に加え、かつての寺宝を各所から集めたことは今までにない試みであった。また、平安時代には日本随一の釈迦の理想像として賛嘆されたものの、中世末に失われた大安寺釈迦如来像の姿について、史料や図像集などを手がかりに迫ろうとする章は、研究上のトピックを市民に還元するという点で意義深いものであった。中世以降の大安寺については、興福寺と西大寺の影響下での活動や近代に至る災害と復興の歴史など、従来あまり知られていない側面に光を当てることができた。		
教育普及	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開講座(3回) 4月29日(金・祝)「大安寺伽藍縁起并流記資財帳の考古学」講師:上原 真人(京都大学名誉教授) 5月21日(土)「大安寺の祈りと営み—出土品を中心に—」講師:中川 あや(奈良国立博物館企画室長) 6月11日(土)「大安寺の仏像」講師:稲本 泰生(京都大学教授)</li> <li>・関連イベント(4回) 4月30日(土)、5月28日(土)「重文で朝ヨガ・呼吸法体験!～ならばくでとのいませんか?～」 4月28日(木) キャンパスメンバーズ向け特別鑑賞会 5月5日(木・祝) 親子向けワークショップ「小花もようのかざりタイルをつくろう」</li> <li>・鑑賞ガイド 「大安寺のひみつ—オニやんの展覧会レポート—」(発行部数14,000部)</li> <li>・音声ガイド</li> </ul>		
その他 (運営・広報・サービス等)	ポスター・チラシ、交通広告、新聞、TV、雑誌、ウェブサイト、Twitterなど幅広い媒体で展覧会情報を発信した。特に展覧会公式Twitterでは、大安寺の鬼瓦をモチーフにした公式キャラクターを活用して、若年層にも興味を引いてもらえるような工夫を凝らした。外部団体主催による関連イベント3件(「奈良仏像けんきゅ一部大安寺展編」、「らくご男子落語会恋バナ編」、「ニコニコ美術館 特別展大安寺のすべて—天平のみほとけと祈り—を巡ろう」)に、研究員が出演した。		
補 足			
【定量的評価】項目	年度実績	目標値	
来館者アンケート満足度	96.4%	89%	
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】 奈良時代の南都の大寺院でありながら、これまで単独の大規模展が開催されてこなかった大安寺について正面から取り上げたこと、数々の関連作品で大安寺の歴史上の存在感を示せたこと、近年の発掘調査成果の蓄積を一堂で紹介できたことなどから、仏教美術を軸とした当館ならではの、時宜を得た内容を示すことができた。入館者数は目標値に届かなかったものの、来館者の満足度は非常に高かった。		
評価: B			



中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信			
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展			
【年度計画】	イ 特別展「中将姫と當麻曼荼羅」(7月16日～8月28日) (目標来館者数3.8万人)			
担当部課	学芸部	事業責任者	主任研究員 北澤菜月	
【実績】				
展覧会名	貞享本當麻曼荼羅修理完成記念 特別展「中将姫と當麻曼荼羅 一祈りが紡ぐ物語」		 <p>告知チラシ</p>	
会期	7月16日(土)～8月28日(日)(39日間)			
会場	奈良国立博物館 西新館			
主催	奈良国立博物館、當麻寺、読売新聞社、NHK奈良放送局			
作品件数	77件			
来館者数	19,966人(達成率:52.5%)			
入場料金	一般 1,600円、高大生 1,000円、小中生 500円、キャンパスメンバーズ学生400円、グッズ付き前売券1,800円、研究員レクチャー付き前売券2,500円			
アンケート結果	満足度 96.1%			
【成果】				
企画構成 展示作品	<p>本展は、綴織當麻曼荼羅(国宝、當麻寺蔵)の江戸時代に作られた模本である貞享本當麻曼荼羅(重文、當麻寺蔵)の修理完成を記念して開催された。貞享本當麻曼荼羅を修理後初めて展示するとともに、軸内納入品の紹介など、修理の成果を展示として示した。また當麻曼荼羅への信仰とそれに連動した中将姫信仰の歴史を、中世から近代にいたる展示品によって示した。展示構成は次のとおり。第1章 靈宝・當麻曼荼羅と中将姫の物語 展示作品: 當麻曼荼羅厨子扉(国宝、當麻寺蔵)、當麻曼荼羅縁起(国宝、光明寺蔵)ほか、第2章 二大當麻曼荼羅の修理と貞享本の製作—江戸時代の大プロジェクト— 展示作品: 貞享本當麻曼荼羅および軸内納入品(重文、當麻寺蔵)ほか、第3章 中将姫の宝物と信仰の広がり 展示作品: 刺繍阿弥陀三尊来迎図(中宮寺蔵)、藕糸織阿弥陀三尊来迎図(福聚寺蔵)ほか、第4章 中将姫イメージの変遷—芸能のなかの中将姫— 展示作品: 金春禅鳳自筆本 當麻(法政大学能楽研究所般若窟文庫蔵)、鷗山姫舎松 浄瑠璃正本(早稲田大学演劇博物館蔵)ほか。</p>			
学術的意義	<p>貞享本當麻曼荼羅(重文、當麻寺蔵)については、修理中のみ可能な裏彩色の調査や蛍光エックス線による顔料分析などを修理中に行ったほか、修理後には詳細な分割写真を撮影した。展示に際してこれら調査成果及びこれらをもとにした研究成果の発表をした。修理に際しては、軸内納入品も多数発見され、その全貌についても翻刻を行い、展示と図録で紹介した。また展示構成として當麻曼荼羅と連動する中将姫への信仰の歴史を中世から近代まで視野に捉え、仏教説話の主人公が芸能に取り入れられ貴族から庶民にいたるまで広く受容されていくさまを、女性の信仰という視点を含めて提示することができた。</p>			
教育普及	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当館講堂における公開講座を次の2回行った。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①「貞享本當麻曼荼羅とその周辺」(講師: 北澤 菜月 奈良国立博物館学芸部主任研究員)</li> <li>②「中将姫説話の展開」(講師: 日沖 敦子 氏 文教大学文学部日本語日本文学科准教授)</li> </ol> </li> <li>・キャンパスメンバーへの解説付特別鑑賞会を1回実施した。</li> <li>・蓮糸織り体験ワークショップを開催し、文化財の素材と技法について紹介した。</li> <li>・中将姫と當麻曼荼羅に関する説話を分かりやすく漫画化したチラシを作成し無料配布した。</li> <li>・展示会場内に當麻曼荼羅の細部を見ることができるビューアーを設置し、観覧者の理解に供した。</li> </ul>			
その他 (運営・広報・サービス等)	<p>ポスター、チラシ、交通広告、新聞広告、テレビ番組、雑誌記事、ウェブサイト運営、SNSなど多数の媒体により展覧会情報を発信した。 當麻寺と連携してスタンプラリーを行った。</p>			
補 足				
【定量的評価】項目	4年度実績	目標値		
来館者アンケート満足度	96.1%	89%		
【年度計画に対する総合評価】 評定: B	<p>【判定根拠、課題と対応】 當麻寺を中心に當麻曼荼羅と中将姫信仰に関わる作品や資料の調査を実施し、その成果を展覧会に生かすことができた。また當麻曼荼羅と中将姫への信仰について、女性の信仰を軸に文化史的事象として新たな視点で一般に示すことができた。なお、会期期間は新型コロナウイルスの感染が全国で拡大しており、その影響で入場者数は目標値に達しなかったが、来館者アンケート満足度は非常に高い数値を得ることができており、評価はBとした。</p>			



中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展		
<b>【年度計画】</b>			
ウ 特別展「第74回 正倉院展」(予定)(10月～11月) (目標来館者数6万人)			
担当部課	学芸部	事業責任者	工芸考古室 研究員 三本 周作
<b>【実績】</b>			
展覧会名	特別展「第74回 正倉院展」		
会 期	10月29日(土)～11月14日(月)(17日間)		
会 場	奈良国立博物館 東新館・西新館		
主 催	奈良国立博物館		
作品件数	59件		
来館者数	87,672人(達成率:146.1%)		
入場料金	一般2,000円、高校・大学生1,500円、小・中学生500円、キャンパスメンバーズ学生400円、研究員レクチャー付き鑑賞券3,000円		
アンケート結果	満足度 83.9%		
<b>【成果】</b>			
企画構成 展示作品	正倉院宝物約9,000件の中から59件が出陳された。4年度も、楽器・調度品・仏具・染織品・文書など、正倉院宝物の全体像がうかがえる構成となった。中でも、日本を代表する名香の一つ・全浅香や、聖武天皇の娘・称徳天皇が東大寺に奉納した銀壺など、正倉院宝物中でも認知度の高い品が展示の目玉となった。奈良時代の仏具や、貴族が身につけた装身具がまとまった点数出陳されたのも特筆される。構成上は、正倉院宝物の内容をわかりやすくたどれるようテーマ別に宝物を展示し、作品解説のみならず、研究成果を紹介するパネルも充実させて、より宝物に親しんでいただけるような展示とした。		
学術的意義	宮内庁正倉院事務所が継続して実施している宝物調査の成果(主として科学的手法によって素材や技法が明らかにされたもの)を、会場題箋やパネル、図録の解説に盛り込み、普段はなかなか知り得ない宝物についての詳しい情報に触れていただける場となった。また、今回の出陳宝物について、当館研究員による新たな研究成果も会場パネルや図録コラムにて紹介することができた。		
教育普及	新型コロナウイルス感染症の影響下で来館者数の制限を行ったため、来館が叶わなかった方にも宝物の魅力に触れていただけるよう、動画配信による展示紹介が行われた。動画は宝物の魅力を音楽家や研究員のコメントとともに紹介する読売テレビ製作のものや、特別協力の読売新聞社主催で行われた講演会(うち1回の講師を当館研究員が担当)を収録したものなどであった。 また、講座は予約制とし、会期中に2回実施した。 例年実施しているボランティアによる講堂での解説は実施できなかったが、音声ガイドでは研究員自身による解説を導入し、宝物のより詳しい解説に触れていただくことができた。音声ガイドの貸出率は24.8%であった。		
その他 (運営・広報・サービス等)	正倉院展は、平常時であれば会期17日間で20万人以上が来館するため、新型コロナウイルス感染症の蔓延防止の観点から入場制限を実施した。前売日時指定制とし、1時間あたりの人数を700人と定めた。予約はインターネットと電話で受け付けた。当日券の販売は実施しなかったが、ポスター、チラシ、主要駅でのデジタルサイネージなどで入念な広報を行ったため、トラブルは少なかった。 入場時には来館者の行列ができたものの、入場を開始するとスムーズに流れ、大きな混乱は起きなかった。入場者数を増やしたため、会場は3年度に比して若干混み合った印象はあるものの、作品を鑑賞しやすい環境は維持できた。 また、特別協力の読売新聞社が立ち上げた正倉院展特設ホームページにおいて、出陳宝物の紹介、宝物に関連するコラムなどが掲載され、大きな宣伝効果を発揮するとともに、図録やグッズを購入できるようにするなど、広範なサービスの充実が図られた。さらに、日中国交正常化50周年記念として、中華人民共和国駐大阪総領事館との共催にて、10月28日の特別内覧会、ならびに11月14日において、正倉院宝物の復元楽器等による演奏集団「天平楽府(てんぴょうがふ)」の演奏会を行い、展覧会への集客に寄与するとともに、関連行事においても積極的に国際交流を進めた。		
補 足			
<b>【定量的評価】</b> 項目	4年度実績	目標値	
来館者アンケート満足度	83.9%	89%	
<b>【年度計画に対する総合評価】</b> 評価: B	<b>【判定根拠、課題と対応】</b> 例年、正倉院展では、正倉院宝物の魅力を感じていただけるよう、展示方法や解説などに工夫を凝らしているが、本年は特にパネルを使った補足説明も充実させ、より詳しい情報を伝えることを意識した。また、展示台の高さを昨年よりも低くすることで、車椅子の方にも見やすい展示を心掛けた。会場運営や広報面でも様々な取り組みが行われたことで、大きな混乱を招くことなく集客を図ることができ、入館者数は目標の146%に達した。来館者アンケートの満足度は目標値に達しなかったものの、新型コロナウイルス感染症対策の対応が強いられる中で、最善の取り組みが実施できたものと考えられ、中期計画を順調に遂行していると評価した。		



告知チラシ

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展		
【年度計画】			
I-1-(2)-②-1) (奈良国立博物館)			
担当部課	学芸部	事業責任者	学芸部長 吉澤悟
【実績】			
展覧会名	式年造替記念 特別展「春日大社 若宮国宝展一祈りの王朝文化一」		
会 期	12月10日(土)～5年1月22日(日)(34日間)		
会 場	奈良国立博物館 東新館・西新館		
主 催	奈良国立博物館、春日大社、朝日新聞社、NHK奈良放送局、NHKエンタープライズ近畿		
作品件数	89件 (うち国宝25件、重文10件)		
来館者数	22,888人		
入場料金	一般1,600円、高校・大学生1,400円、小・中学生700円、キャンパスメンバーズ学生400円、研究員レクチャー付き鑑賞券2,500円		
アンケート結果	満足度 94.1%		
告知チラシ			
【成果】			
企画構成 展示作品	春日大社若宮の式年造替の完成を記念して企画した特別展。国宝・若宮御料古神宝類の全点公開を中心に、現代の名工がその復元模造に取り組んだ成果作品もあわせて公開した。展示構成は、第1章「春日若宮神の誕生」、第2章「若宮御料古神宝の世界」、第3章「御造替の伝統」、第4章「若宮信仰の発展とおん祭」の4章で構成。平安時代の高度な工芸技術や、式年造替の歴史及び文化継承の営みなどについて広く紹介を行った。全89件の出陳作品のうち、国宝25件、重要文化財10件、初公開5件を含む。		
学術的意義	春日大社若宮に捧げられた神宝や獅子・狛犬像などに対して、CTや蛍光X線分析などの科学調査及び金工・彫刻史的調査を行い、その成果を図録や会場パネル等で紹介した。さらに調査で得られたデータを春日大社が行う神宝復元事業に供し、その完成品を本展で初公開した。また、約900年の伝統をもつ造替事業について再検討し、旧規古制を守りながらこれを未来に伝える文化継承事業と捉えて、その意義や重要性を展示や図録に反映させた。		
教育普及	公開講座「王朝文化が蘇る 春日若宮古神宝とその復元」(講師:松村和歌子 春日大社国宝殿主任学芸員)を開催し、キャンパスメンバーへの解説付特別鑑賞会も実施した。春日大社周辺の散策イラストマップ(文化財情報を含む)を作成し、無料配布した。展示会場には作品の拡大写真パネルや、復元模造の製作、古社殿の移築史などの解説パネルを多数配置して観覧者の理解に供した。		
その他 (運営・広報・サービス等)	ポスター、チラシ、交通広告、新聞広告、テレビ中継・番組、ラジオ出演、雑誌記事、WEBサイト運営、SNSなど多数の媒体により展覧会情報を発信した。また、展覧会会場入口の展示を撮影可とした。		
会場入口展示風景			
補 足			
【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	
来館者アンケート満足度	94.1%	89%	
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】		
評価: B	日本屈指の国宝・優品を保有する春日大社における作品のCT調査や年代考証等を実施し、その成果を展覧会に生かすことができた。また、「造替」という歴史的な文化継承の営みを、神宝の原品展示や復元模造の製作過程パネル等によって広く紹介し、その意義を一般に示すことができた。さらに、イラストマップの配布、会場入り口の撮影コーナー設置など、春日大社と共同で来館者へのサービス向上に努め、高い満足度を得られていることも実績として特筆されることよりB評価とした。一方、未だコロナ禍の影響にあり、来館者数に伸びがみられなかったことが惜しまれ、新年の初詣客へのアピール等に課題を残した。		

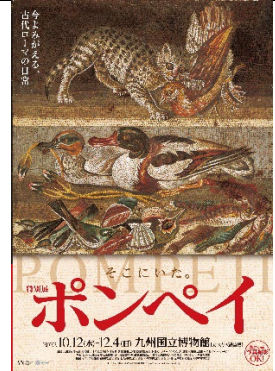
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信						
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展						
【年度計画】							
ア 特別展「北斎」(4月16日～6月12日)(51日間)(目標来館者数4万人)							
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	文化財課主任研究員 畑靖紀				
【実績】							
展覧会名	特別展「北斎」						
会 期	4月16日(土)～6月12日(日)(51日間)						
会 場	九州国立博物館 特別展示室						
主 催	九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、TNCテレビ西日本、TVQ九州放送						
作品件数	130件(うち重要文化財2件)						
来館者数	135,955人(達成率:339.9%)						
入場料金	一般1,800円(1,600円)、高校・大学生1,000円(800円)、小・中学生600円(400円)※()は前売料金						
アンケート結果	満足度88.4%						
告知ポスター							
							
				告知ポスター			
				告知ポスター			
				告知ポスター			
【成果】							
企画構成 展示作品	監修に大久保純一氏(国立歴史民俗博物館教授)を迎え、当館蔵の重要文化財「日新除魔図」と関わりの深い晩年作と肉筆画を積極的に紹介した。展覧会は3章構成で、第一章「これぞ、北斎!—『真正の画工』への道のり—」では長寿を願った北斎晩年の版画と肉筆画の名品を紹介し、第二章「素顔の北斎—日新除魔図の世界—」では画家の豊かな創造力を伝える連作の全貌を公開した。第三章「名作誕生の秘密—北斎とゆかりの画家たち—」では絵師の試行錯誤を歴史的に捉え、先人からの、そして後世への影響関係を具体的に紹介し、重要文化財「二美人図」(静岡・MOA美術館蔵)などを展示した。また、「日新除魔図」と同時期の肉筆画の大作「東町祭屋台天井絵」(長野・小布施町東町自治会)を九州で初公開した。						
学術的意義	平成29年(2017)の坂本五郎氏による当館への寄贈以前は、研究者でも実見が困難であった重要文化財「日新除魔図」(宮本家本)の全219枚を、日本で初めて一般公開し、今後の北斎研究に大きく資する展覧会となった。さらに本展では晩年作と肉筆画を数多く取り上げ、第三章に「美人画の競演」「中国画に学ぶ」「ジャポニスム」などのテーマを設けて、文化交流の観点も交え、北斎の作品を近世絵画史に位置付ける研究成果を提示した。						
教育普及	(公財)アダチ伝統木版画技術保存財団より資料提供をうけ、「浮世絵版画(錦絵)の制作工程」のコーナーで版木や彫り・摺りの道具を展示した。モニターで動画「凱風快晴 摺りの工程」を上映し、浮世絵版画が出来るまでの製作工程を具体的に紹介した。						
その他 (運営・広報・サービス等)	本展の公式図録『北斎HOKUSAI 日新除魔図の世界』(講談社)は、重要文化財「日新除魔図」(宮本家本)の全図を収録する初めての図書として、当該分野の基本文献として高い評価を得た。会場で五千冊を販売し、会期終了後も一般図書として市販されている。会場では所蔵品の「日新除魔図」について個人利用に限る撮影を許可して好評を得た。タイアップイベントとして、1階エントランスホールにてNTT東日本「Digital×北斎」サテライトミュージアム in 九博を同時開催し、本展でその下絵を展示した、葛飾北斎最大の作品である岩松院(長野・小布施町)の本堂天井絵「鳳凰図」などをデジタルデータを用いて紹介した。						
補 足	 展示風景 (第二章「日新除魔図」)  展示風景 (第三章「美人画の競演」)						
【定量的評価】項目							
来館者アンケート満足度	4年度実績	目標値					
	88.4%	87%					
【年度計画に対する総合評価】 評価: A		【判定根拠、課題と対応】 長年、多くの成果が積み重ねられてきた浮世絵研究において、文化交流の観点も交えて北斎の作品研究の成果を提示した。とくに日本初公開の「日新除魔図」の展示及び本図の写真撮影が可能であることが評価され、当初の想定を大幅に超える来場者を迎えることができ、高い満足度を得た。混雑時の観覧動線や版画作品の特に厳しい照度条件に対しては改善を求める声があった。脆弱な作品の展示の対策が今後の課題である。本展は、学術的にも非常に意義が高く、来館者目標を3倍強上回り、新型コロナウイルスの影響を大きく払拭したことから、A評価とした。					



中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展		
【年度計画】			
イ 沖縄復帰50年記念特別展「琉球」(7月16日～9月4日)(45日間) (目標来館者数3万人)			
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	展示課主任研究員 一瀬智
【実績】			
展覧会名	沖縄復帰50年記念特別展「琉球」		
会 期	7月16日(土)～9月4日(日)(45日間)		
会 場	九州国立博物館 特別展示室		
主 催	九州国立博物館・福岡県、NHK福岡放送局、NHKエンタープライズ九州、読売新聞社、文化庁		
作品件数	242件(うち国宝46件、重要文化財13件)		
来館者数	41,054人(達成率:136.8%)		
入場料金	一般1,900円(1,700円)、高校・大学生1,200円(1,000円)、小・中学生800円(600円)※()は前売料金		
アンケート結果	満足度 90.8%		
告知チラシ			
【成果】			
企画構成 展示作品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国宝「琉球国王尚家関係資料」(尚家宝物)をはじめ、沖縄が誇る独自の歴史と文化を象徴する多様な文化財を、先史時代、琉球王国時代から近現代に及ぶ5章構成で展覧した。</li> <li>・アジアにおける琉球王国の成立と、特色豊かな文化の形成及び明治以降の近代化や戦後の困難を乗り越えて現在も続く復興と継承の意義を紹介した。</li> <li>・沖縄復帰50年や首里城再建など社会的関心の高い内容となった。</li> </ul>		
学術的意義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・復帰以降の50年間に歴史、考古、美術工芸など各分野において目覚ましく進展した琉球史・琉球文化の研究成果を大いに反映した。</li> <li>・東京国立博物館と当館が、沖縄県立博物館・美術館など沖縄県内関係機関の多大な協力を得て研究の到達点を示す展覧を実現した。相互の意見交換や共同調査も含め、今後の琉球の歴史・文化研究の進展に大いに寄与した。</li> </ul>		
教育普及	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシやプレスリリース資料の内容を中学生向けに改変した「ジュニアガイド」を作成し、会場内で配布したほか、近隣中学校にも送付し展覧会の普及に努めた。</li> <li>・館内ホールにおいて外部講師による講演会を2回(7月16日 講師:田名真之氏(沖縄県立博物館・美術館館長)、8月7日 講師:上江洲安亨氏(沖縄美ら島財団)・原田あゆみ氏(東京国立博物館))、担当研究員によるリレー講座を2回(8月13日、8月20日)実施した。</li> <li>・親しみやすい内容の解説動画を撮影し、当館ウェブサイトのYouTubeで公開した。</li> </ul>		
その他 (運営・広報・サービス等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示レイアウトは可能な限り来館者の混雑回避に配慮した。</li> <li>・ポスター・チラシ、交通広告、新聞、テレビ、ラジオ、雑誌、ウェブサイト、SNSなど各種媒体で情報発信した。</li> <li>・会場の一部(尚家宝物の工芸品エリア)で、個人利用に限り来館者による作品の写真撮影を可能とした。</li> <li>・会期中に、沖縄出身の著名人によるトークイベントやコンサートを実施し、広報や沖縄文化の普及に努めた。</li> </ul>		
補 足	 <p style="text-align: center;">展示会場</p>		
【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	
来館者アンケート満足度	90.8%	87%	
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】		
評価: B	<p>沖縄復帰50年や首里城再建という時宜を得て、学術的のみならず社会的関心も高い内容となった。各種広報の効果もあり来館者数は目標値を大きく上回った。作品の質の高さ、分かりやすいグラフィックパネル及び動線、沖縄の雰囲気や醸成したディスプレイや撮影可能エリアも高く評価され、目標値を超える90.8%の満足度につながった。</p>		



中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展		
【年度計画】	ウ 特別展「ポンペイ」(10月12日～12月4日)(47日間)(目標来館者数4万人)		
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	展示課長 齋部麻矢
【実績】			
展覧会名	特別展「ポンペイ」		
会 期	10月12日(水)～12月4日(日)(48日間) ※11月28日は臨時開館		
会 場	九州国立博物館 特別展示室		
主 催	九州国立博物館・福岡県、ナポリ国立考古学博物館、朝日新聞社、NHK福岡放送局、NHKエンタープライズ九州、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス		
作品件数	125件(うち国宝0件、重要文化財0件)		
来館者数	79,919人(達成率:199.8%)		
入場料金	一般1,900円(1,700円)、高校・大学生1,200円(1,000円)、小・中学生800円(600円)※()は前売料金		
アンケート結果	満足度90.8%		
【成果】			
企画構成 展示作品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紀元79年にヴェスヴィオ山の大噴火で一昼夜にして埋没した、ローマの古代都市ポンペイを紹介する展覧会である。</li> <li>・数多くの出土品を所有するナポリ国立考古学博物館の全面協力のもと125件の優品を展示した。</li> <li>・当時の都市生活を生き生きと蘇らせると同時に、社会構造やインフラ、進んだ科学技術など、古代ローマ繁栄期の高度な文明を紹介した。</li> <li>・当時の邸宅を飾ったフレスコ画やモザイク画、神々の彫像、高度な技術で制作された工芸品、様々な職種の道具類、パンなどの食料など多彩な作品を、「古代へのタイムトリップ」を感じる空間構成で展示し、臨場感を高めた。</li> </ul>		
学術的意義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポンペイ遺跡は教科書にも取り上げられる有名な遺跡で、現在も発掘調査が進行中である。新たに判明した調査成果も展示に盛り込んだ。</li> <li>・災害の悲劇だけではなく、学術的成果に裏付けられた当時の都市のくらしを多角的な視点から紹介し、古代文明への関心を高めた。</li> <li>・邸宅の復元など、臨場感あふれる展示構成とし、併せて邸宅装飾の歴史的な変化も展示した。</li> <li>・現地で進行中の保存修復を紹介し、歴史を後世に伝える重要性を広く発信した。</li> </ul>		
教育普及	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生向けとして「ジュニアガイド」を作成して福岡市内の小学校全生徒に配布、展示室にも配架した。</li> <li>・ナポリで修行した講師を迎えて子ども対象のモザイクワークショップを実施した。</li> <li>・本展総監修者青柳正規氏(東京大学名誉教授)の記念講演会「ポンペイに魅せられた50年」(10月15日)と、当館研究員4名によるリレー講座を2回開催した(10月29日・11月6日)。</li> <li>・視覚障がい者に展示を楽しんでいただく企画「視覚障がい者をつくる対話型鑑賞」を実施し、さらに当館実施の講座では初めての試みとして、リレー講座の一部に手話通訳付き解説を導入した。</li> </ul>		
その他 (運営・広報・サービス等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスター・チラシ、交通広告、駅構内広告、テレビ・ラジオの出演などの広報を行った。</li> <li>・近隣の市町村において展示紹介講座を行い、公式Twitter及びYouTubeで研究員が展示作品を解説した。</li> <li>・アニメ「ジョジョの奇妙な冒険」とのコラボレーションでキャラクターの等身大パネルなどをエントランスに設置、館内でNHK関連番組の一部放映、来館者による「モザイクどーもくん」を制作し、来館者増に努めた。</li> </ul>		
補 足	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>展示会場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>YouTube での作品解説</p> </div> </div>		
【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	
来館者アンケート満足度	90.8%	87%	
【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】		
評価：A	当館展示室の特性を生かした空間構成と、作品がよりよく見える照明や、ゆったり観覧できる動線計画を策定し、再現性の高い造作で古代ローマ都市生活への没入感を与え、目標値を超える高い満足度を得た。またTwitter等のSNSにおける広報を通して新規顧客層を開拓に努めたことで、来館者数は目標値の約2倍と目標を大幅に上回った。以上の実績から、所期の目標を大きく越える成果を上げたと判断し、A評価とした。		



告知チラシ

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ②特別展等 1) 特別展		
【年度計画】			
エ 特別展「加耶」(5年1月24日～3月19日)(48日間) (目標来館者数2万人)			
担当部課	学芸部企画課	事業責任者	文化財課長 白井克也
【実績】			
展覧会名	特別展「加耶」		
会 期	5年1月24日(火)～3月19日(日)(48日間)		
会 場	九州国立博物館 特別展示室		
主 催	九州国立博物館・福岡県、韓国国立中央博物館、国立歴史民俗博物館、西日本新聞社、西日本新聞イベントサービス、TVQ九州放送		
作品件数	273件(重要文化財 11件)		
来館者数	26,990人(達成率:135%)		
入場料金	一般1,700円(1,500円)、高校・大学生1,000円(800円)、小・中学生600円(400円)※()は前売料金		
アンケート結果	満足度86.0%		
【成果】			
企画構成 展示作品	朝鮮半島南部で3～6世紀に栄えた国家群「加耶」と、加耶などの渡来人の日本国内での足跡をたどった。2019年～2020年に国立中央博物館ほかの韓国内の博物館を巡回した「加耶本性」展の内容を基本とする第一部「加耶の興亡」と、国内作品による第二部「渡来人」で構成した。第一部では韓国で宝物(日本の重要文化財に相当)に指定されている金銅冠(韓国国立大邱博物館蔵)などを、第二部では重要文化財新沢千塚126号墳出土品(東京国立博物館蔵)などを展示した。		
学術的意義	加耶をテーマとする大規模な展覧会は日本国内では約30年ぶりであり、この間の考古学・歴史学の目覚ましい発展の成果を紹介した。特に、文化圏を超えて移動した人びとと在地社会の共存に焦点を当て、移住した人びとが在地の社会の運営に参加する中で、文化や技術が交流していく様を、実物資料によって示した。		
教育普及	特別展に関連して、記念講演会とリレー講座を開催した。 記念講演会 西谷正氏(九州大学名誉教授)「五世紀・倭の技術革新と加耶」5年1月29日 リレー講座第1回 5年2月4日 白井克也「王陵でめぐる加耶の旅」 齋部麻矢「地中海からきたガラス」 大澤信「古代朝鮮半島における仏教の伝来と受容—その時、加耶は...—」 リレー講座第2回 5年2月11日 大高広和「加耶からの「渡来人」の行方」 小嶋篤氏(九州歴史資料館)「倭人と渡来人」 岡寺良「はじめての牧場—河内湯のほとりに営まれた古墳時代の牧—」 また、展示作品の理解を深めるショートムービー「仔馬の大冒険」を製作、公開した。		
その他 (運営・広報・サービス等)	韓国国立中央博物館・国立歴史民俗博物館及び当館の3館共催で実施し、展示の構成のほか、図録・展示室のグラフィックなどで協力しつつ進め、最新の研究成果を反映した。当初は2年度に開催の予定であったが、新型コロナウイルスの世界的な流行により延期され、4年度の開催となった。 会場前の物販では、障がい者が展示品をモチーフとしたグッズを「まごころ製品」として販売を行った。		
補 足			
【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	
来館者アンケート満足度	86.0%	87%	
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 コロナ禍によって2年以上の延期を余儀なくされた展覧会であったが、展示手法の工夫などによって認知が広がったことが動員につながるとともに、図録の購買率も9%程度と高く、関心の高まりが示された。一般へのなじみの薄かった加耶や渡来人について、最新の研究成果を普及するとともに、渡来人と倭人が生活を共にする中で文化や技術が共有されていったという知見を広めることができた。		




告知チラシ

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供		
【年度計画】	・ I-1-(2)-③-1) (4館共通) ア、イ(東京国立博物館)ア、イ、ウ、エ、オ、カ、キ、ク		
担当部課	総務部総務課 総務部環境整備課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課 学芸企画部企画課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部博物館教育課 学芸企画部広報室 学芸研究部列品管理課	事業責任者	課長 竹之内勝典 課長 城山美香 特別展室長 猪熊兼樹 デザイン室長 矢野賀一 国際交流室長 楊鋭 課長 鈴木みどり 教育普及室長 品川欣也 教育講座室長 勝木言一郎 室長 鬼頭智美 平常展調整室長 市元壘
【実績・成果】 (4館共通)	<p>ア 平常展の題箋及び解説等について、4言語(日、英、中、韓)による掲示を行った。また、多言語表記の見直しを行い、視認性の向上を図った。</p> <p>イ バリアフリー対策として、平成館2階トイレブース改修工事(5年3月6日完了)を行った。 (東京国立博物館)</p> <p>ア 日本文化や歴史への理解促進を図るため、本館4室「茶の美術」と9室「能と歌舞伎」にデジタルサイネージを引き続き設置し、展示作品の使用例や文化的背景を補足する映像を上映した。本館1室、本館特別1室のコーナー解説・グラフィックパネルについてデジタルサイネージを導入し、鑑賞環境の向上を図った。なお、誘導サインとデジタルサイネージでは、4言語にて展示の見どころなどの情報を発信した。</p> <p>イ より快適な観覧環境を構築するため、本館特別1室・2室の改修、14室中央行灯ケースの更新を実施した。本館特別1室展示室改修工事の展示ケース製作の製作監理、本館特別1室、14室の独立ケースの設計及び製作管理を行った。</p> <p>ウ、キ 日英中韓の4言語に対応した鑑賞ガイドアプリ「トーハクナビ」では、公式ウェブサイトと国立博物館所蔵品統合検索システムColBaseとの連携を図りながら、展示情報や作品解説を常に更新し、新たに撮影された作品画像を逐次追加した。インタラクティブコンテンツの充実を図るとともに、より快適な利用のために随時修正を行い、コンテンツのリニューアルを行った。また、特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」の会場内でも試行し、利用者の好評を得た。Google Analyticsのデータ、展示室内のビーコンのログデータにより、ユーザーログの集積も継続した。</p> <p>エ 講座・講演会では、引き続き聴覚補助を目的として、ヒアリングループの設置・管理と、音声認識システム「UDトーク」アプリを使用し、さらに一般来館者の理解補助にもつながるよう「UDトーク」利用を推進した。また、zoom配信のワークショップにおいても「UDトーク」を使用し、参加者の理解補助につなげた。視覚障がい者のために引き続き点字パンフレットを引き続き作成、配布をした。触知図に加え、150周年事業の一環として、新たに漆の素材や技法のわかる触察ボードの作成を行った。また、感覚過敏の来館者のために感覚刺激の強い場所などを表す「センサーマップ」を作成してウェブサイトで開催し、「トーハクナビ」においても新たに「休息スポット」を設定し、公開した。</p> <p>オ 4年度「案内と地図」(総合案内パンフレット)の配布を行った。8・11月に、日9万5千部、英3万部、中(簡体字)2千部を増刷した。また、5年度の総合案内パンフレットは全面的な改訂を行い、7言語8種(日5万部、英2万部、中(簡体字)6千部、韓4千部、中(繁体字)4千部、仏2千部、西2千部、独2千部)を制作した(中(繁体字)・仏・西・独の印刷物は5年4月末納品予定)。また、年度に関係なく長期にわたって使用できるよう、掲載事項についても恒常的な情報のみとするよう調整した。</p> <p>カ 本館2階「日本美術の流れ」の3言語(英、中、韓)のパンフレットのPDF版をウェブサイトで公開した。紙媒体での配布から、来館者自身の端末でのダウンロード、閲覧にシフトしたことで、より多くのニーズにこたえられるようになった。</p> <p>キ 引き続き、展示の要点と基礎的な解説を盛り込んだ4言語のグループ解説パネルを設置したほか、新題箋の改善をすすめ、分かりやすい展示解説の工夫に取り組んだ。</p> <p>ク レプリカやデジタルコンテンツを活用した体験型展示「日本文化のひろば」を恒常的に日本文化体験が行える場として継続運営した。</p>		
【補足事項】 (4館共通)	<p>イ 一般便所でのバリアフリー対策として、トイレブース内に手すりを設置した。 (東京国立博物館)</p> <p>イ 快適な観覧環境を整備するため、本館特別1・2室の展示ケース、照明設備、内装改修工事等を行った。</p> <p>ウ アプリの4年度のダウンロード数は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Android版「トーハクナビ」5,770件(累計9,163件、2年3月31日公開)(旧「トーハクナビ」累計23,483件 平成24年4月18日～2年4月7日公開)</li> <li>・iOS版「トーハクナビ」12,915件(累計93,463件、2年3月31日公開)(旧「トーハクナビ」累計56,980件 平成24年4月18日～2年4月7日公開)</li> </ul>		
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 高齢者や障がい者等にも利用しやすい施設を実現するため、年度計画に掲げているバリアフリー化の推進に向け事業を実施し、計画どおり進展している。 より快適な観覧環境を形成するため、トーハク新時代プランに基づき、展示室内の展示ケース・照明設備・内装などの整備を実施した。4年度は本館特別1室展示室改修工事の展示ケース製作の製作監理、本館特別1室、14室の独立ケースの設計及び製作管理、本館1室、本館特別1室のコーナー解説・グラフィックパネルについてデジタルサイネージを導入したことで鑑賞環境が向上した。		
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。			
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 館内施設・設備のバリアフリー化を推進し、トーハク新時代プランに掲げる展示室リニューアル工事を推進できている。今後は高齢者・障がい者だけでなく、文化・言語・国籍・年齢・性別などの違いにかかわらずできるだけ多くの人が利用できることを目指した設備整備を実現していく。		

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供		
【年度計画】	・ I-1-(2)-③-1) (4館共通) ア、イ、(京都国立博物館) ア、イ、ウ、エ、オ		
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 阿部勝 企画室長 山川暁
【実績・成果】	<p>(4館共通)</p> <p>ア 平常展及び特別展において、題箋及び解説文、並びに音声ガイドを用いて情報提供を行った。題箋や解説文、平常展・特別展「河内長野の霊地」音声ガイドは4言語(日・英・中・韓)対応、その他特別展音声ガイドは新型コロナウイルスの影響により、3年度に引き続き2言語(日・英)対応を行った。</p> <p>イ・3年度に引き続き、特別展の題箋にユニバーサルデザインのフォントを使用し、より多くの来館者にとって読みやすい表示ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者鑑賞会の実施に際して行っているアンケートに、3年度より「バリアフリー施設・設備」に関する項目を新たに設け、意見を取り入れやすい環境の整備を行った。</li> <li>・バリアフリー施設・設備がき損していないか巡回点検を行う体制を整え、点検を実施した。</li> </ul> <p>(京都国立博物館)</p> <p>ア 館内案内リーフレット(7言語(8種):日・英・中(簡体字・繁体字)・韓・仏・独・西)を継続して配布した。</p> <p>イ デジタルサイネージを活用して、カフェを含めた館内各施設を紹介できた。</p> <p>ウ スマートフォンアプリを活用した体現学習型コンテンツ開発を4年度に予定していたが、導入後のランニングコスト検討が長引き、4年度中の開発ができず、5年度以降の開発を目指すこととした。なお、コンテンツ開発の一環として、来館者用Wi-Fiへの利用方法について、ウェブサイトに掲載した。来館者用Wi-Fiは、コンテンツを利用する際に発生するデータ通信を補う役割を担っており、利用方法をウェブサイトに掲載することで、快適にコンテンツを利用可能な環境を整備することができた。</p> <p>エ 3年度に引き続き、名品ギャラリーのジュニア版音声ガイドを使用し、若年層の音声ガイド利用増加を促すことができた。</p> <p>オ・4年度から、展示ケース内面ガラスの定期的な清掃を実施し、従来以上に快適な観覧環境の提供を整備することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年度に引き続き、新型コロナウイルス対策としてCO2濃度を監視しつつ外気取入量を調整することにより、安全で快適な観覧環境の提供を図った。</li> </ul>		
【補足事項】	<p>(4館共通)</p> <p>イ・展示ケースへの貼り題箋を用いた特別展「最澄と天台宗のすべて」・特別展「京に生きる文化 茶の湯」・特別展「親鸞一生涯と名宝」にて、題箋にユニバーサルデザインフォントを使用した。</p> <p>音声ガイド利用台数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝教大師1200年大遠忌記念 特別展「最澄と天台宗のすべて」(2言語 日・英) 7,069台</li> <li>・特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺—真言密教と南朝の遺産—」(4言語 日・英・中・韓) 2,477台</li> <li>・特別展「京に生きる文化 茶の湯」(2言語 日・英) 15,217台</li> <li>・名品ギャラリー(4言語 日・英・中・韓) 3,188台</li> <li>うちジュニア版音声ガイド(4言語 日・英・中・韓) 107台</li> </ul>		
	 <p>「河内長野の霊地」展 音声ガイド看板(4言語対応)</p>		
【年度計画に対する総合評価】	評定：B	【判定根拠、課題と対応】	3年度に引き続き、4年度も特別展の題箋フォントにユニバーサルデザインを使用したことで、より多くの来館者が観覧しやすい環境を整えることができた。年度計画に掲げる館内施設のバリアフリー化について維持管理を行い引き続き快適な観覧環境の提供を実施できた。
【中期計画記載事項】	博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。		
【中期計画に対する評価】	評定：B	【判定根拠、課題と対応】	特別展時の題箋フォントのユニバーサルデザイン使用や、多言語化についての機構内他館との意見交換会実施により観覧環境の向上を図るなど中期計画を順調に遂行できた。今後も継続して実施することで、良好な観覧環境の提供を行いたい。バリアフリー施設・設備についてもアンケートの実施や巡回点検による維持管理を行い、良好な観覧環境を提供できていることから、Bと評価する。



中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供		
【年度計画】			
・ I-1-(2)-③-1) (4館共通) ア、イ (奈良国立博物館) ア、イ、ウ、エ、オ			
担当部課	総務課	事業責任者	課長 大西真一
【実績・成果】 (4館共通) ア 館内案内リーフレットは4言語(日、英、中、韓)を準備し、幅広い層が展示を楽しめるように努めた。 イ 特別展「大安寺のすべて」、特別展「中将姫と當麻曼荼羅」、「第74回正倉院展」では有料の音声ガイドにスクリプトを準備し、聴覚に障がいのある来館者等にも音声ガイドと同じ内容が楽しめるよう工夫した。また、特別展「中将姫と當麻曼荼羅」、「第74回正倉院展」では、補聴器使用者や左右の耳の聴覚が異なる来館者に向けて片耳イヤホンの貸出、車椅子や杖の利用によりガイド器操作が難しい来館者へ延長コードの貸出も行った。 (奈良国立博物館) ア 昨年度実施したクラウドファンディングによる寄附金を基に庭園と茶室の整備を行った。 イ 昨年度に制作した多言語の案内看板やピクトグラムを使用することで、幅広い来館者層に快適な観覧環境を提供した。 ウ 4年度の特展のうち、特に混雑が予想された「第74回正倉院展」では、入館方法についての案内看板やコインロッカーの利用案内看板を作成し、快適な観覧環境の実現に努めた。 エ 新型コロナウイルス感染症の影響により、往時と比較して訪日外国人の来館者が減少したため、館内案内リーフレットは日本語のみ制作した。他の言語のリーフレットは必要に応じて適宜提供している。 オ 総合案内カウンターに外国語(英語、中国語)対応ができるスタッフを常駐させ、外国人来館者への対応を充実させられるよう努めた。			
【補足事項】 (4館共通) ・新型コロナウイルス感染症拡大予防対策として、手指用アルコールの設置や入館時の検温、館内の手すり、ソファ、コインロッカーの定期的な消毒などの対策を行い、来館者が少しでも安全な環境で観覧できるよう努めた。 (奈良国立博物館) ・3年度実施したクラウドファンディングによる寄附金を基に、老朽化対策及びバリアフリー対策工事を行った。具体的には、庭園内を安心安全に周遊できるルートの整備、老朽化した茶室(八窓庵)の屋根及び外壁の整備、その他にくずれかけていた池の護岸の整備を行った。整備後には寄附者を招待しお披露目式を行った。 また、特に来館者の多い正倉院展の会期に合わせて一般公開も行った。 ・展示室の適正な温湿度管理のため、空調設備メンテナンス計画に基づき、機器の更新を行った。 ・なら仏像館では、外国人の来館者に向けて3言語(英語、中国語、韓国語)の案内リーフレットを作成し、受付での案内に使用した。			
 更新後の空調設備機器 (冷温水熱源装置)		 整備後の庭園	
		 なら仏像館 韓国語案内	
【年度計画に対する総合評価】 評価：A		【判定根拠、課題と対応】 3年度に引き続き、来館者が快適に観覧できるよう、音声ガイドや案内看板、リーフレットなどを中心に、環境の整備や創意工夫を行った。さらに、3年度に実施したクラウドファンディングの寄附金を基に、庭園整備及びバリアフリー化を実現した。老朽化していた庭園の整備によって、多様な来館者へ配慮した観覧環境の提供ができたことは高く評価できるため、A評価とした。	
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。			
【中期計画に対する評価】 評価：B		【判定根拠、課題と対応】 障がい者向けの音声ガイドサービスの充実化や多言語での看板類の作成など、あらゆる立場の来館者が展示を楽しめるよう努力し、中期目標を遂行できている。引き続き、快適な観覧環境の提供を努めていく。	

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 1) 快適な観覧環境の提供		
【年度計画】			
・ I-1-(2)-③-1) (4館共通) ア、イ、(九州国立博物館) ア、イ、ウ、エ			
担当部課	学芸部企画課 展示課 総務課	事業責任者	課長 伊藤信二 課長 齋部麻矢 課長 執行正一
【実績・成果】 (4館共通) ア ・文化交流展(平常展)、特別展(「北斎」「琉球」「ポンペイ」「加耶」)において、題箋及び作品解説の一部について4言語(日、英、中、韓)の情報提供を行った。 イ ・「ならべてわかる本物のひみつ～実物とレプリカ 2022～」では展示台や机の高さと構造を調整し車いす利用者に対応した。題箋にUDフォントを用い、点字や手話解説動画を加えて、視覚及び聴覚障がい者への情報を提供した。視覚障がい者のために、点字付きチラシや展示室内立体マップを作製・配布した。 ・新型コロナウイルスの感染防止に配慮し、以下のような対応を行った。 ・非接触サーモグラフィでの検温の実施。 ・来館者へマスク着用を依頼。 ・来館者同士の適切な距離の確保の呼びかけを実施。 ・足踏式消毒液を設置。 ・密を避けるため展示室毎の滞在可能者数を制限(文化交流展示室:600人、特別展示室:650人)。 (九州国立博物館) ア 特集展示「きゅーはく女子考古部プレゼンツ かわいい考古学のススメ」「種子島-風と波が育んだ歴史-」におけるパネル類及び題箋は、視認性が高いユニバーサルデザイン(以下UD)フォントを使用した。 イ 展示室の年間カレンダーを見やすいものに更新した。 ウ 館内案内リーフレット(7言語(8種):日、英、中(簡体字・繁体字)、韓、仏、独、西)を継続して制作し、配布した。 エ 既存の音声ガイドを廃止し、視覚及び聴覚障がい者や外国人を含め誰でも利用できるスマートフォンアプリ「ナビレンス」を利用した音声・テキストによる情報提供を開始した。このアプリは作品解説や経路案内も可能にも活用でき、展示室をはじめ館内外各所に専用タグを設置した。手話通訳による解説動画約30件を制作した。			
【補足事項】			
ナビレンスについては以下のメディアで取り上げられた。 ・テレビ報道(KBC九州朝日放送・TVQ九州放送) ・新聞記事掲載(西日本新聞社・毎日新聞社) ・視覚障がい者への援助を目的ラジオ番組(KBCラジオ) その中で「誰もが楽しめる博物館に」といった、社会包摂の新たな実現手段のひとつであることや、視覚や聴覚に障がいのある来館者、また外国語ユーザーなどにも博物館を楽しめる手助けとなるツールとして高く評価できるとして紹介された。			
ナビレンス設置状況			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 題箋にUDフォントを用いたり、点字題箋及びチラシを配布する等の社会包摂に則った取り組みを推進した。新ガイドシステムを提供し、障がい者への情報保障だけでなくお客様からは幅広く好評を得ており、左記の評定とした。		
【中期計画記載事項】 博物館内の施設の多言語化、バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化並びに各種案内の充実、研修等の実施等を通じて、高齢者、障がい者、外国人、乳幼児連れの来館者等の利用にも配慮した快適な観覧環境の提供を行う。			
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画に基づき、すべての来館者に快適な観覧環境を提供すると共に、お客様からのフィードバックを踏まえた改善を継続している。一層の満足度を向上するための努力と魅力ある博物館を実現すべく新たな取り組みも行い、中期計画の達成にむけた事業を円滑に推進できたことから、B評定とした。		

【書式A】		施設名	東京国立博物館		処理番号	1232A				
中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信									
事業名	(2) 展覧事業 ③ 観覧環境の向上等 2) 来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等									
【年度計画】・I-1-(2)-③-2) (4館共通) ア、イ、ウ (東京国立博物館) ア										
担当部課	総務部総務課				事業責任者	課長 竹之内勝典				
<b>【実績・成果】</b> (4館共通) ア 4年度もミュージアムショップ、レストラン、館内スタッフの対応についての満足度調査を行った。 イ ミュージアムショップで販売する創立150年記念グッズの開発協力を行った。また、特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」においては、展示作品がほぼ館蔵品で構成されることを踏まえ、商品開発に全面的な協力をを行い、数多くの魅力的な展覧会オリジナルグッズを開発した。 ウ 特別展「空也上人と六波羅蜜寺」では、4月9日(土)～30日(土)の土曜、日曜、祝日の開館時間を18時まで、5月1日(日)から8日(日)までは19時までとする開館時間の延長を行った。また、特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」では、開館時間の延長、休館日の臨時開館(12月5日(月))、1週間の会期延長(12月13日(火)～18日(日))を行った。 (東京国立博物館) ア 4年度もキッチンカー2台体制で飲食物の販売を行い、飲食提供の選択肢を増やした。また、キッチンカー、レストランともに「月イチ! トーハクキッズデー」に合わせて、子供向けメニューを準備し提供するなど、館内実施イベントの盛り上げを図った。										
<b>【補足事項】</b> (4館共通) イ 表慶館にて開催した「150年後の国宝展」では、企業との連携により、館蔵品と企業の商品等がコラボレーションを行った展覧会オリジナルグッズを開発し、販売を行った。 ウ 特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」では、日時指定制による入館者数を制限した運営を行っていた。しかし、日時指定枠については連日完売となり、多くの来館者から観覧機会を求める意見を頂戴した。そこで文化財保護の観点から展示作品の状態等を考慮した上で、開館時間の延長、休館日の臨時開館、1週間の会期延長を行った。特に1週間の会期延長については、来館者サービスの向上につながる対応を行ったと言える。なお、開館時間の延長について補足すると、当初は金曜、土曜日は20時まで開館としていたが、会期中よりこれを拡大し、11月17日(木)から12月11日(日)までは木曜・日曜・祝日も20時まで開館とした。ただし11月24日(木)を除く。また、会期延長期間の12月13日(火)から18日(日)は20時まで開館した。 (東京国立博物館) ア 特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」において多くの来館者が想定されるため、来館者サービスの一環として10月18日(火)～23日(日)の期間限定で、平成館ラウンジに虎屋が出店し軽食販売を行った。										
<b>【評価指標】</b> 項目										
		4年度実績	目標値	評定	経年	30	元	2	3	
観覧環境に関する来館者アンケート満足度		62.0%	69%	C	変化	71.3	71.7	65.4	66.0	
<b>【年度計画に対する総合評価】</b> 評定：B			<b>【判定根拠、課題と対応】</b> 特別展「国宝 東京国立博物館のすべて」の特設ショップにおいては、商品ラインナップの影響が想定よりも多くの来館者が商品を求めることになり、来館者サービスの向上に寄与したと言える。また「150年後の国宝展」では、当館と企業のコラボレーションによるオリジナルグッズの開発・販売を行い、一部の商品については欠品が続くこともある等、想定を超えた反響があった。さらには、平成館ラウンジでの虎屋の出店についても、連日、商品が売り切れとなるなど、想定以上の集客であった。観覧環境に関する来館者アンケート満足度は目標値を下回ったものの、館内環境・館内スタッフに対する評価は高いものとなり、4年度全体として来館者サービスの向上に努めることができたため、目標を達成したと言える。							
<b>【中期計画記載事項】</b> 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランとサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。										
<b>【中期計画に対する評価】</b> 評定：B			<b>【判定根拠、課題と対応】</b> 4年度は特別展の状況にあわせ開館時間の延長や会期の延長を行うなど柔軟な運営を行うことができた。5年度以降も混雑する特別展では開館時間を延長することなど柔軟に運営できるように共催者とも事前に引き続き検討していきたい。 キッズデーイベントに合わせて、キッチンカーの販売商品を関連した内容にするなど、キッチンカー業者とも連携できたため、今後も引き続き飲食店と展示との連携を図っていく。 感染防止対策については3年度から継続して実施しているものもあるが、屋内外の飲水機を再開させるなど、対策の緩和を行った事項もある。引き続き、感染防止対策及び対策の緩和については、状況を注視の上、行っていきたいと考える。							

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信							
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 2) 来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等							
【年度計画】 ・ I-1-(2)-③-2) (4館共通) ア、イ、ウ、(京都国立博物館) ア								
担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長 阿部勝 企画室長 山川暁					
【実績・成果】 (4館共通) ア 展覧事業、観覧環境等についての来館者アンケートを4言語(日・英・中・韓)で実施し、幅広い意見の把握に努めた。 イ ・ミュージアムショップでは、利用者等の意見を参考に、オリジナルグッズを開発し、展覧会に応じた関連商品等を取り揃えた。 カフェでは、展覧会に応じたオリジナルメニューを提供した。 ・来館者のニーズの把握及びサービスの向上のため、ミュージアムショップ運営業者及び会場運営との連絡会議をそれぞれ開催し、情報交換及び新たな取組の検討を行った。 ウ ・特別展では、時間ごとの来館者数データに基づき、3年度に引き続き開館時間を30分前倒しする早朝開館を実施した。 ・特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺—真言密教と南朝の遺産—」、特別展「京に生きる文化 茶の湯」では金・土曜日の開館時間を20時までとする夜間開館を実施し、展示室内の混雑緩和を避けることができ、良好な観覧環境を提供することができた。 (京都国立博物館) ア 『博物館だより217号』に奈良大学・大河内智之氏による特別展「河内長野の霊地 観心寺と金剛寺—真言密教と南朝の遺産—」の展覧会評を掲載した。								
【補足事項】 (4館共通) イ ・収蔵品及び公式キャラクター・トラりんをモチーフにして、京都の伝統産業である京蠟燭、水引を用いたオリジナルグッズの開発を行った。 ・利用者に人気がある公式キャラクター・トラりんをモチーフにした野帳を作成した。								
								
トラりん野帳		和蠟燭セット		水引				
【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評価	経年 変化	30	元	2	3
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	77.3%	64%	B		73.1	67.4	74.5	67.9
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響緩和により、3年度と比較して、海外からの来館者数が増加した。感染防止対策の多言語案内を継続することにより、多様な来館者が安心して観覧できる環境を整えることができた。 また、観覧環境に関するアンケート満足度は、3年度を上回り、目標値を達成できた。 満足度調査及び運営業者との情報交換により、利用者等のニーズを把握し、問題点の改善、新たな取組みを検討し、行った。							
【中期計画記載事項】 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。								
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 来館者への満足度調査、各運営スタッフとの情報交換により、館に求められるニーズを把握し、館運営の見直し、改善を図った。また、早期開館や夜間開館を実施するなど、開館時間を柔軟に設定し、混雑緩和や観覧機会の拡大に努めることができたためBと評価する。今後も、上記取組みを継続し、来館者のニーズに応えられる館運営を目指して努力する。							



中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 2) 来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等								
【年度計画】									
・ I-1-(2)-③-2) (4館共通) ア、イ、ウ 満足度調査・サービス改善 (奈良国立博物館) ア、イ									
担当部課	総務課			事業責任者	課長 大西真一				
【実績・成果】									
(4館共通)									
ア 通年で記述式アンケートを実施した。外国人来館者を含め、寄せられた意見・要望を館内の関係部署と共有し、適宜改善に努めた。									
イ アンケート及びウェブサイトを通じて寄せられたミュージアムショップやレストランへの意見・要望を踏まえ、展覧会に合わせた限定メニューを提供するなど、利用者へのサービス向上に努めた。									
ウ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で2年度は実施を見送り、3年度の半ばから再開した毎週土曜日の夜間開館(17時～20時)を今年度も引き続き実施した。また、周辺行事に合わせたライトアップや夜間開館での協力も実施した。									
(奈良国立博物館)									
ア アンケートで得られた意見・要望を参考に、レストランメニューの改善や工夫に努めた。									
イ ミュージアムショップにおいて展覧会グッズの開発や仏教美術に関する図書の充実を図った。									
【補足事項】									
(4館共通)									
ア 新館の閉館期間中、新館が開館中と誤認する来館者が多かったため、なら仏像館へ誘導する掲示物を制作し、わかりやすい案内に努めた。									
(奈良国立博物館)									
ア 特別展「大安寺のすべて」および「中将姫と當麻曼荼羅」では限定メニューを提供し、利用者へのサービス向上に努めた。									
イ 公式キャラクターのグッズや、第74回正倉院展の出陳宝物をあしらったグッズをミュージアムショップで販売した。公式キャラクターグッズは、新たにトートバッグ、フレックシール、メモ帳、クリアファイル、マグネット、缶バッチの6種類作成した。									
									
特別展「大安寺のすべて」 だるまさん最中			特別展「大安寺のすべて」 熊笹茶・ソフトクリームセット			公式キャラクターグッズ どんまいザートバッグ			
【定量的評価】 項目									
		4年度実績	目標値	評価	経年変化	30	元	2	3
観覧環境に関する来館者アンケート満足度		71.6%	74%	C		75.8	81.9	71.4	68.9
【年度計画に対する総合評価】					【判定根拠、課題と対応】				
評価：B					観覧環境に対するアンケート満足度はレストランの満足度が低かったことで目標値を下回る結果となったが、特別展ごとの限定メニューの提供をはじめ、公式キャラクターグッズを4年度も追加制作したことで、新たな客層として特にアンケートに含まれにくい若年層の掘り起こしを行い、集客が図られたことは高く評価できる。レストランのメニューが少ないという声が多かったため、5年度は特別展限定メニューを増やすなどの取り組みを検討する。またミュージアムショップやレストランは利用していないという声も多いため、引き続き敷地内の案内看板設置や限定メニューの提供、割引キャンペーンの企画などの取組を通して、利用率向上を目指していく。				
【中期計画記載事項】									
来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの意見聴取等を定期的実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善を要望する等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。									
【中期計画に対する評価】					【判定根拠、課題と対応】				
評価：B					夜間開館の再開や、記述式アンケートやウェブサイトからの意見・要望に適宜対応し、来館者に配慮した運営を行うよう努力した。加えてアンケートは様式を適宜見直しを行い、来館者の声をより詳細に把握できるようにするなどの取り組みを行うことで、中期計画を順調に進めている。4年度、目標値に届かなかった満足度については、5年度以降改善に向けて努力し、中期計画を遂行していく。				

中項目	1. 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信								
事業名	(2) 展覧事業 ③観覧環境の向上等 2) 来館者の満足度調査等の実施、サービスの改善等								
【年度計画】 ・ I-1-(2)-③-2) (4館共通) ア、イ、ウ (九州国立博物館) ア、イ									
担当部課	学芸部企画課 展示課 広報課 総務課			事業責任者	課長 伊藤信二 課長 齋部麻矢 課長 野田智子 課長 執行正一				
【実績・成果】 (4館共通) ア <ul style="list-style-type: none"> <li>文化交流展及び特別展において記述式の来館者アンケートを4言語(日・英・中・韓)で実施した。また、特別展ではQRコードを記載した看板を設置してウェブサイト上のアンケートに誘導し、幅広い意見を把握した。寄せられた意見は関係部署で共有し、改善に努めた。</li> <li>聴覚障がい者を対象とした手話通訳付きミュージアムトークを行い、障がい者対応イベントは、当日の感想シェアやアンケートにより高く評価された。太宰府駅からの案内など、来館のための利便性の向上や観覧補助の必要性などの指摘を受け、将来の継続的な事業展開のための改善の指標とした。</li> <li>特別展「ポンペイ」では展示作品「炭化したパン」に注目が集まり、「炭化したパン」をイメージした黒いパン(「ポン・パン」)を障がい者が作る「まごころ製品」として販売した。好評のうちに完売し、展覧会の広報と障がい者の自立支援を共に実現した。</li> </ul> イ 福岡県の世界遺産の島、宗像・大島の塩を使用した、ご当地ノベルティを製作し、文化交流展での新春特別公開に合わせて、来館者へ配布した。 ウ 開館以来、恒例となっている元旦からの開館を本年も実施した。特別展開催期間の金・土曜日に夜間開館を実施した。特別展「北斎」では、多くの来館者に対応するため、6月5日(日)と6月12日(日)は開館時間を1時間延長した。特別展「ポンペイ」では11月28日(月)を臨時開館日とした。 (九州国立博物館) ア <ul style="list-style-type: none"> <li>4年度もレストランとカフェの休店が続いたが、営業再開に向け、耐用年数が経過している施設設備の改修を行った。また、5年度からの再開に向け、レストラン・カフェ運営委託事業者を選定した。</li> <li>休店中の来館者サービスのため、5月からはキッチンカーを導入し、軽食や飲み物の販売提供を行った。</li> </ul> イ 特別展「北斎」で好評を博した「日新除魔図」をモチーフにした、地域ゆかりの玩具「さいふごま」を製作し、ミュージアムショップにて販売した。									
【補足事項】									
									
「日新除魔図」さいふごま			キッチンカー						
【定量的評価】項目	4年度実績	目標値	評価	経年変化	30	元	2	3	
観覧環境に関する来館者アンケート満足度	77.9%	68%	B		61.6	70.2	-	81.1	
【年度計画に対する総合評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 新春特別公開に合わせた記念品製作・配布のほか、所蔵品をモチーフとし、長期的に販売できるオリジナルグッズを作成した。また、レストラン・カフェの休店中の対応として、キッチンカーを導入し、来館者サービスの向上に努めた。なお、5年度中途からはレストラン・カフェの営業が再開する見込みである。アンケート満足度も目標値を達成し、所期の計画を遂行できたため、左記の評価とした。								
【中期計画記載事項】 来館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施する。これらの調査結果を踏まえ、事業、管理運営についての見直しや改善を行う。特に開館時間の延長、混雑時の対応、ミュージアムショップやレストランのサービスの改善等、来館者に配慮した運営を行い、観覧環境に関する来館者アンケートの上位評価が前中期目標の期間と同程度の水準の維持を目指す。									
【中期計画に対する評価】 評価：B	【判定根拠、課題と対応】 レストラン・カフェ休店中の不便を解消するため、キッチンカーを導入した。5年度のレストラン・カフェ再開に向け、レストラン施設設備を改修するとともに、運営委託を行う事業者を選定し、中期計画に沿ったお客様サービスの向上に取り組んだ。また、アンケート満足度においても目標値を達成したことから、左記の評価とした。								